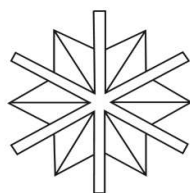


令和6年度



# 研究紀要

第41号

秋田県立本荘高等学校

# 目 次

巻 頭 言	新しいことに取り組み、失敗し改善する	校 長	高 橋 雄 一	1
＜全日制課程＞				
授業改善				
	校内研修計画	研修班	佐々木 英 憲	2
校内相互授業参観（10月7日～10月18）				
公開授業	GeoGebra クラスルームを活用した授業の実践	数学科	濱 田 正 登	3
	進化のしくみの理解と誤概念修正を目指した	理 科	信 太 さやか	5
	探究的授業実践－STEAM教育の理論に			
	沿った授業展開－			
	令和6年度公開授業について【1年生・情報I】	情報科	長 澤 尚	11
	授業アンケート	研修班	山 田 樹	13
研修報告				
基本研修				
中堅教諭等資質向上研修	令和6年度秋田県公立高等学校	保健体育科	杉 渕 茂 利	22
	中堅教諭等資質向上研修を終えて			
実践的指導力発展研究	総合教育センター研修 A-25	芸術科	森 久 樹	25
	実践的指導力発展研修講座			
学年主任研修	高等学校新任学年主任研修を終えて	数学科	木 村 滋	26
講師等研修	令和6年度高等学校講師等研修講座を	数学科	伊 藤 光 希	28
	受講して			
専門研修	人間関係づくりに生かす構成的グルー	国語科	藤 原 直 哉	29
	プエンカウター			
＜定時制課程＞				
授業改善				
	校内研修計画	研修部	齋 藤 芳 徳	32
	校内授業研究会	地歴公民科	保 坂 真	33
	令和6年度授業改善重点事項について	研修部	齋 藤 芳 徳	40
	授業アンケートと分析	研修部	山 岸 幸 希	42
協働的な態度の育成				
	令和6年度縦割り活動について	特別活動部	保 坂 真	48
	コグニティブトレーニングについて	支援委員会	佐々木 奈緒子	56
研修報告				
基本研修				
講師等研修	令和6年度高等学校講師等研修講座を	数学科	山 岸 幸 希	58
	受講して			
編集後記				

## 巻頭言

新しいことに取り組み、失敗し改善する

校長 高橋 雄一

今年度は10月9日に高教研英語部会研究大会が本校で開催され、全県から50名の先生が参加しました。大会のテーマは「生徒の主体的活動を促し、論理的・批判的思考力を高める授業の工夫」で、本校教諭三浦瑞穂先生による英語コミュニケーションⅡの公開授業・研究協議、秋田大学・若有保彦准教授の講演「論理的・批判的思考力を高める活動のアイデア」がありました。開会式で下橋部会長が英語でスピーチしたことが印象的でした。

10月31日にも高教研地歴公民部会の世界史の研究授業が本校で開催され、こちらも他校から多くの参加者が本校を訪れました。テーマは「社会的な見方・考え方を働かせるための指導の工夫」で、本校教諭石垣裕介先生が世界史探究の授業を行いました。

また、昨年に引き続き9名の先生が他校視察（秋田高校、伊那北高校、松本深志高校、秋田南高校、仙台第三高校）を行い、校内では相互授業参観を実施して本校の授業や教育活動の質の向上に努めています。

さて、生徒が学校で自らの人格に磨きをかけ、卒業後に社会へ出て生き抜く力を身に付けるときに、その生徒に大きく関わってくるのが学年部という存在です。毎日の学校生活の中で最も生徒と接し、最も影響を与える存在でもあります。学校としては大きな目標や方向性を示しているとして、その中での細かい方策や取り組み、ルールの作成と実行は学年部の取り組みによって大きく変わってきます。個人的な話をすると、学年主任の立場になったときに実施しようと考えたことは、厳しい学習指導と厳しい生徒指導を両立させることでした。なぜなら、過去の経験から2つの指導のうちの片方だけ徹底できても望んだように生徒が育たないという経験があったからです。厳しい学習指導では、生徒の家庭での学習のチェックを徹底し粘り強く指導すること、厳しい生徒指導では生徒のルール違反を見逃さず指摘し教員間での情報共有を徹底し、学年部として生徒に対してブレのない公平な指導を継続することでした。この生徒指導は現場で先生方が皆同じ対応をすることになり、いわゆる教師個人としての指導の裁量を限りなく制限することを意味していました。この学年部としての取り組みを、学校を変えて2回ほど取り組んだ結果として見えたことは、多くの生徒がルールという枠の中で比較的自由にかつ安全に学校生活を送れること、そして進路変更等で学校を去る者が限りなく減ることでした。ただ、はじめて学年主任を持ちこれらを実施するときは、清水の舞台から飛び降りるような気持ちでした。継続できなければ学年部が崩壊するのではないかとの懸念は常にありました。このことは、研究発表という形で外部に紹介していませんが、この取り組みで経験したことがその後の教育活動に対する考え方や教員生活そのものを大きく変えたことも事実です。そして、おそらく学校の教育活動の中では、それぞれの先生方がいろいろな場面で多くの取り組みをし、研究発表まではいかなくても研究しているのだと思います。

この研究紀要に記載していることに限らず、先生方は常に自分の指導法や取り組みについて考え、新しいことにチャレンジしていると思います。その結果を評価し次回に生かすことを継続しましょう。この繰り返しにより指導の質が高まっていくと確信しています。また、取り組みには間違いや失敗が必ずあります。失敗することを恐れなくて新しい考え方や取り組みにチャレンジして欲しいと思います。

# 全 日 制 課 程

## 令和6年度 分掌経営計画（教務部・研修班）

### 1 目標・重点事項

目 標	重 点 実 施 事 項
授業力・指導力の向上に組織的・継続的に取り組むことのできる支援体制を確立させる。	1 組織的な教材研究や教授法研究への取り組みを推進する。 2 教科を超えた横断的相互授業の参観と授業研修を推進する。 3 『研究紀要』の内容充実を図り、知的財産の構築を図る。

### 2 構成員及び業務分担

構成員	◎佐々木英憲 齋藤雄一郎 佐藤美和子 山田 樹
-----	-------------------------

業務区分	業 務 内 容	担 当 者
総 務	総括（企画・調整）	◎佐々木、齋藤
職員研修	各種研究会、講習会申し込み	○佐々木、山田
	校内職員研修、公開研究授業実施計画	○佐々木、全員
	初任研、経験年次別研修、中堅教員研修など	○佐々木、佐藤
教育実習	教育実習関係事務、教育実習生指導	○佐々木、佐藤
研究紀要	研究紀要の発刊計画、編集、関係事務	○齋藤、山田
資料整理	各種資料整理	○佐々木、山田

### 3 業務計画

学期	月	業 務 等
1	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担、年間計画、目標、運営方針</li> <li>・秋田県総合教育センター研修講座申し込み</li> <li>・秋田県高等学校教育研究会会員登録</li> <li>・初任者研修計画等作成</li> <li>・中堅教員研修計画等作成</li> <li>・今年度教育実習受け入れ準備</li> <li>・経験年次別研修計画等作成</li> <li>・来年度教育実習生受付</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会（全体研修テーマ・授業研究会・職員研修会）計画</li> <li>・教育実習生指導（オリエンテーションを含む）</li> <li>・第1回相互授業参観</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研修推進</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研修推進</li> </ul>
2	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研修推進</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研修推進</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開研究授業（兼）第2回相互授業参観</li> </ul>
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『研究紀要』への寄稿依頼</li> </ul>
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の編集計画</li> </ul>
3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の原稿締切 →編集</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の原稿起案 →印刷</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の発行</li> <li>・各種資料の整理と1年間の総括</li> </ul>

1. 単元 数学 I 「三角比の拡張」

2. 目標

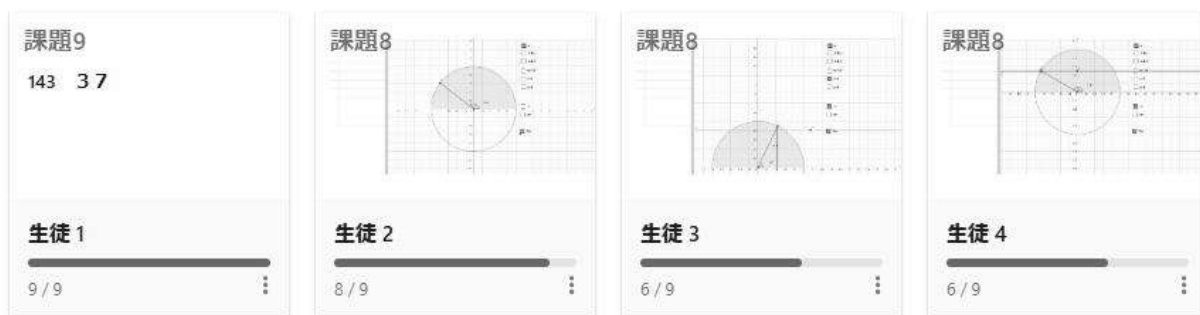
(生徒) 三角比の拡張を、グラフソフトを活用して視覚的かつ直感的に理解する。

(教師) GeoGebra クラスルームを活用し、生徒の作業状況や理解度をリアルタイムで把握し、個別指導の精度を向上させる。

3. 教材

GeoGebra で作成したオリジナル教材を使用し、GeoGebra クラスルームを利用して生徒の進捗状況を把握した。

教材を使用中の生徒数30

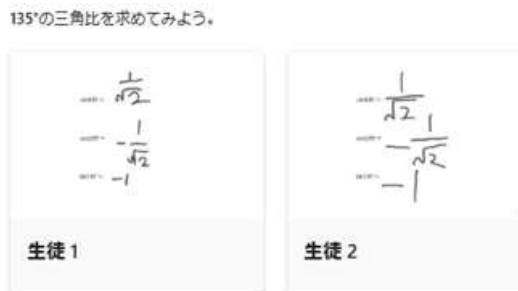


生徒の作業の様子

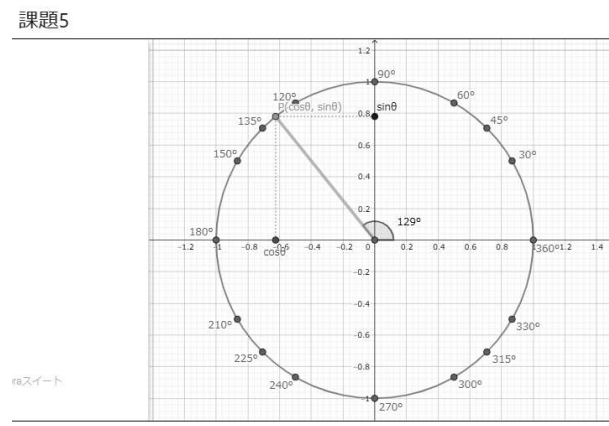
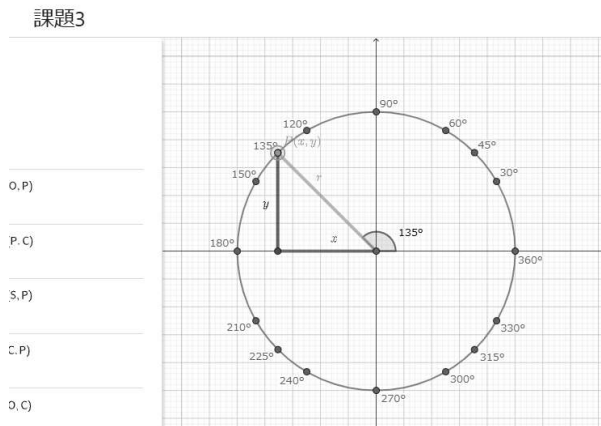
4. 教材で工夫した点

(1) 文章入力や数式記入の問いを設け、生徒全体の理解度を把握した。

興味深い回答を共有して活用した。



(2) 円周上の点を動かし、角度と  $\cos \theta \cdot \sin \theta$  の関係を視覚的に学習させた。



(3)  $\sin \theta = 0.6$  のときの  $\theta$  の値など、有名角以外の値について考察させた。

		36 144	$\cos 0.6 144^\circ$ $\tan 0.6 36^\circ$
生徒1	生徒2	生徒7	生徒8

## 5. 実践を終えて

### 成果

- ・生徒が積極的に作業に取り組み、GeoGebraを使った活動に高い興味を示した。
- ・視覚的な確認を通じて、三角比の性質への理解が深まったという感想が多かった。

### 課題

GeoGebraを使ったリアルタイムの進捗把握は有効だったが、生徒全体の理解度を総合的に評価するための追加の工夫が必要。

## 6. 今後の展望

生徒の発言や作業記録を活用し、フォローアップの精度を高めることで、指導法の改善を図る。

理科（生物）

進化のしくみの理解と誤概念修正を目指した探究的授業実践

－STEAM 教育の理論に沿った授業展開－

日 時 令和6年10月17日(木)・18日(金)

対 象 第2学年DEF組36名

授業者 教諭 信太 さやか

使用教科書 生物（数研出版）

### 1 前提

2018年告示の学習指導要領では、「生物」においてそれまで教科書の最終章だった「生物の進化」が冒頭に位置付けられるようになった。本来、生物の進化を考えるにあたっては遺伝子、代謝、発生などの複数の分野における多くの知識を融合させることが重要であるが、それらを履修する前に進化のしくみを理解しなければならなくなった。そのため、科学的な根拠に基づいた理解ではなく、一般的に広がっている通説、俗説に思考が引っ張られやすい。その代表例が突然変異と自然選択の理解についてである。

「キリンの首はなぜ長い？」という問いに対し、多くの人々は「高い木の上の方の葉を食べるため」と回答するのではないだろうか。

これは1809年にラマルクが提唱した用不用説の変形タイプと言える。この「～するためにこうなった」という考えを、ここでは目的論的進化観と呼ぶこととする。授業内では多くの生徒もはじめはこのように回答していた。今回の授業の目的はこの誤概念の修正である。

同時に、現在2年生が取り組んでいる探究活動においては、先行研究に関する論文を読むことを推奨している。論文から得られる情報をどのように自分の活動に結びつけていくかの経験を経て、大学における学習のイメージを掴ませることも意図した。

この授業の展開は、田崎一希氏の論文(2023)をベースにし、STEAM教育、探究活動の要素、ICTの活用を加え考えた。

---

#### [指導案]

#### 1 単元名 第1章第4節 進化のしくみ

#### 2 単元設定の理由

- ① 単元観… 生物の進化について観察、実験などを通して探究し、その特徴を見出し表現することが求められる。本授業では、用不用説と自然選択説の違い、目的論的進化観という誤概念の修正を重視した。
- ② 生徒観… 既習事項を用い、積極的に学ぼうとする姿勢が見られる。進化のしくみについてはその概要を中学校で学んでいるが、一般的に浸透しがちな誤概念を正しい



としている様子が見受けられる。

- ③ 指導観… シミュレーション実験を通じ、実体験として目的論的進化観を修正することで、進化のしくみを論理的に理解し、説明できるようする。

### 3 単元の目標

突然変異と遺伝的浮動、および自然選択によって遺伝子頻度が増加することを理解する。  
隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。

### 4 STEAM 教育との関連と評価の観点

STEAM 教育的観点			評価の観点
S	科学	進化のしくみについての正しい知識を身に付ける	知・技
T	技術	表計算ソフト、共同編集ツールの使用	知・技
E	工学	シミュレーションに必要なモデルの作成	知・技、思・判・表
A	芸術	文献からの情報の獲得、説明文章の作成	思・判・表
M	数学	シミュレーション結果のデータ解析とグラフへの出力	知・技

### 5 授業展開（全体を通した評価の観点：主体的に学習に取り組む態度）

	生徒の活動	指導上の工夫・評価
1 時間 目	<p>[ジグソー法] 4人グループを編成。4人で役割を分担し、本時はエキスパートグループで活動。classroom で配布されている論文の必要な箇所を読み、プリント【資料1】に内容をまとめる。</p> <p>EXP.1：[背景]シミュレーション実施における生物学的背景</p> <p>EXP.2：[モデル化]散布体のモデル化(散布器官をもつ意義と生息環境)</p> <p>EXP.3：[試作]散布体モデルの作成【資料2】</p> <p>EXP.4：[シミュレーション]シミュレーションの手順確認その後、4人グループに戻って共有。プリントをまとめる。</p>	<p>エキスパートグループごとに論文のどの部分を読めば良いかをアドバイスする。</p> <p>論文を正しく読み取ることができる[思]</p> <p>情報共有に積極的に取り組んでいる[主]</p>
2 時間 目	<p>シミュレーション手順の確認。</p> <p>以下は、論文からまとめた手順に従って実施。</p> <p>[シミュレーション]【資料3】</p> <p>①親世代のモデル作成</p> <p>②F<sub>1</sub>～F<sub>4</sub>世代の散布器官の角度と風向きをルーレットで決定し、子孫を残した個体の散布器官の角度と移動距離をスプレッドシートに入力。</p> <p>③9グループすべてのデータから平均値を取り、世代を経た進化の方向性を確かめる。</p> <p>[確かめ]</p> <p>・Padlet に提示された2つの問いに対し、各生徒が意見(説明)を提示し、分類、共有する。</p>	<p>手順に従い正しくモデル作成、データ入力等を行うことができる [知]</p> <p>協働的にシミュレーションを行うことができる [主]</p> <p>具体的な進化の事例についての正しい理論で説明できる [思][主]</p>

## 2 各エキスパートグループの内容について

論文から読み取るべき重要項目は次の通りである。

**EXP.1:** シミュレーション実験に用いる生物は散布器官（綿毛）をもつ種子植物である。  
[種子散布の適応的意義] 1. 近親者観の競争の回避 2. 環境の適応性への時間的変化への適応（親周辺では特異性の高い植食者や病原体の密度が高まっているため、このネガティブな影響を受けないようにする） 3. 近交弱勢の抑制 [コスト] 1. 散布を可能にする器官の生成コスト 2. 散布の過程で種子が死亡するリスク 特に本授業では、コストの考え方が重要であった。

**EXP.2:** 散布器官の形は、生育域が大陸か海洋島かによって異なる。散布器官が大きい場合は風の抵抗を受け散布体が遠くまで飛び、散布器官が小さいと落下に要する時間が短く近くに落ちる。それぞれどちらが有利か、その違いをまとめた。

**EXP.3:** 参考論文にモデルの作り方が記載されている【図1】ので、親世代（散布器官切れ込み角度 $\theta=60^\circ$ ）を作成し、手順と必要な材料等を確認した。

**EXP.4:** 親(P)世代から始めて、第4世代( $F_4$ )を得るまでの手順を確認した。(1)Pが海洋島

の中心に落ちたと仮定するところから始める (2) $F_1$ (2個体)の形質を決定する。散布器官の切れ込み角度（突然変異）、および風向き（自然選択）をルーレットで決定する (3)  $F_1$ モデルを1.8mの高さから落下させ床につくまでの時間を測定し、換算表から移動距離を算出 (4) 海洋島図において、Pから(3)で算出した距離分風向きに従って移動したところに印をつける (5)海に落ちた個体はそこで死亡し、生き残った個体から次の $F_2$ 世代を得る論文からこれらのことを読み取るのに、思った以上に時間がかかった。生徒は、文章を読む力がいかに重要かを痛感しているようだった。

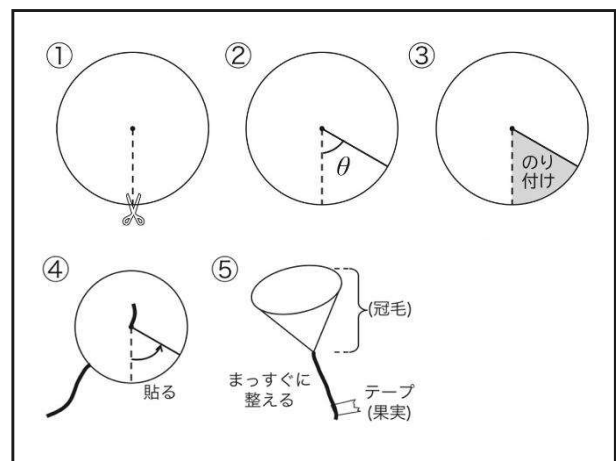


図1 論文に記載されていたモデル作成方法  
出典：田崎(2023)を一部改変

## 3 シミュレーション

前時に EXP.2 を担当した生徒を中心に仮説を立てた。

また、EXP.3、4 を担当した生徒を中心に、グループでシミュレーションを行った。最低でも  $F_3$ 、可能であれば  $F_4$  までのデータをとるように指示したところ、多くのグループは

$F_3$ まで、スムーズに実施できたグループは  $F_4$ までデータをとることができた。また、中には  $F_2$ ですべての個体が海に落下し種が絶滅しまったグループもあったため、進化の偶然性を体感することができた。



1.8m の高さからモデルを落下させ、床につくまでの時間を測定

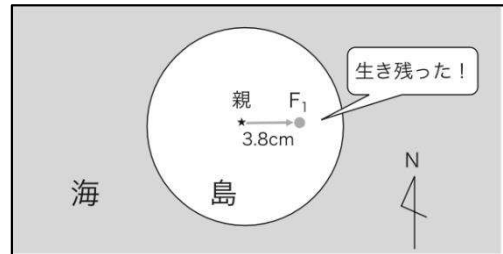


タンポポ属の進化												
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ												
Q メニュー 100% 123 Zen M...												
O9												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
落下時間-進む距離 換算表												
3	落下時間[秒]	距離[cm]	落下時間[秒]	距離[cm]	落下時間[秒]	距離[cm]	落下時間[秒]					
5	0.60	0.0	1.01	2.1	1.42	6.2	1.83					
6	0.61	0.0	1.02	2.2	1.43	6.3	1.84					
7	0.62	0.0	1.03	2.3	1.44	6.4	1.85					
8	0.63	0.0	1.04	2.4	1.45	6.5	1.86					
9	0.64	0.0	1.05	2.5	1.46	6.6	1.87					
10	0.65	0.0	1.06	2.6	1.47	6.7	1.88					
11	0.66	0.0	1.07	2.7	1.48	6.8	1.89					
12	0.67	0.0	1.08	2.8	1.49	6.9	1.90					
13	0.68	0.0	1.09	2.9	1.50	7.0	1.91					

落下時間を、親個体からどれくらい離れるのかの距離に換算（表はあらかじめ準備したもの）



方角&角度ルーレット						
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ						
Q 100% 123 デフォ...						
110						
A	B	C	D	E	F	G
南			20°小さくする			
方角を決定!			角度を決定!			
ボタンを押してください			ボタンを押してください			



出典：田崎(2023)を一部改変

次の世代の散布器官の切れ込み角度（図1の $\theta$ ）と、東西南北どちらに飛ぶかはスプレッドシートにGASで作成したルーレットでランダムに決まる。

換算した距離と方向で散布体の移動を記録用紙に記入。また、図に軌跡を描き、散布体が海に落ちて死亡するか生存するかを確かめる。生存した個体に平均値をスプレッドシートに入力し、次世代が2個体生じるものとして再びモデルを作成する。



記録用紙 参考：田崎(2023)をもとに作成

風散布種子は、島でどのように進化するか					それぞれの世代で生き残った個体の平均値	
[記録用紙]						
親	① 綿毛の角度 ② 方向 ③ 距離			親世代は地図には描きません。		① ② ③
子 第1世代 F <sub>1</sub>	① ② ③	① ② ③			① ② ③	
子 第2世代 F <sub>2</sub>	① ②	① ②	① ②	① ②	① ②	

## 4 結果

シミュレーション前の仮説では「海洋島では綿毛の小さな個体が有利であり、世代が進むごとにその形質の個体が増加する。」と考え

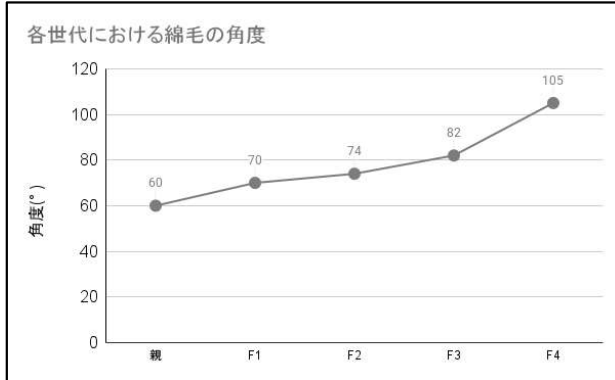


図2 各世代における綿毛の角度

シミュレーションの過程の中では、綿毛の角度や風向きはルーレットによる完全な偶然からなるものであり、そこに目的（海に落ちないようにする）は介在しない。偶然の繰り返し

ていたが、9グループがそれぞれ得たデータを合わせ出力したグラフから、その仮説が正しいといえる結果を得ることができた。

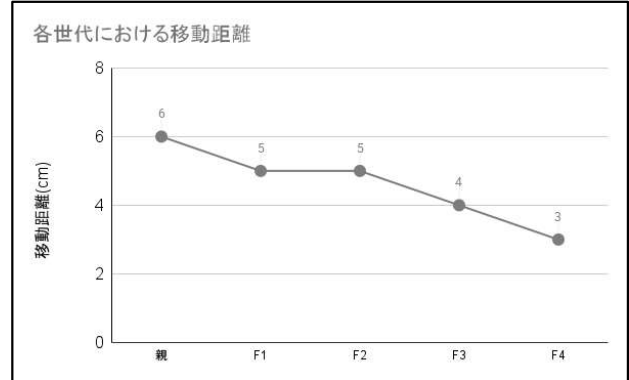


図3 各世代における移動距離

返しから自然選択（海に落ちずに生き残る）を繰り返すことで、海洋島に適応した変化＝進化が起こることが確認された。

## 5 確かめ

シミュレーションの結果では目的論的進化観の誤りを確かめることができたが、その確認のために、次の2つの例を挙げ生徒に考えさせた(例はいずれも田崎(2023)より引用)。ここではオンライン掲示板アプリ Padlet を使い、生徒どうしがリアルタイムにそれぞれの意見を閲覧することができるようにした。また、Padletにあるグループ化の機能で、生徒の解答を「用不用」「目的論」「突然変異のみ」「自然選択のみ」「突然変異+自然選択」の5つにグルーピングした。問1では多くの

生徒が「自然選択のみ」または「突然変異+自然選択」による説明をしており(22名)、一部、説明の不足する部分もみられたが、ほぼ正しく理解することができていた。一方、問2では多くの生徒が「用不用」または「目的論」による説明をしており(21名)、器官等が失われる進化についての理解が難しいことがわかった。これについては、EXP.1の担当内容にあった「コスト」についても一度プリントを読み返し、再度考えることで解決することができた。

問1 チーターは獲物を追うときに時速 96km で走ることができます。チーターの祖先は、時速 32km でしか走ることができなかつたと仮定すると、今日のチーターはどのようにしてそれほど早く走る能力を持つようになったのでしょうか。流れを詳しく説明してください。

<p>[解答例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーターは持久力がなく短時間で獲物を捕まえなければならなかったため、早く走れる個体が生き残った[誤：自然選択と目的論の混乱]</li> <li>・チーター以外の動物の足が速くなって、チーターが獲物を獲れなくなったので速く走れるようにならなければならなかった[誤：目的論]</li> <li>・他の肉食動物が獲れない動物をチーターが生き残りのために追ってみた結果、足が速くなった[誤：進化ではなく獲得形質的な説明]</li> <li>・他のチーターよりも速く走ることができたチーターが偶然生き残り子孫を残したから [ほぼ正：足が速い理由が不足している→獲得形質なのか突然変異なのか不明]</li> <li>・足の速い個体と遅い個体が現れ、足の速い個体は生き残り、子孫を残すことができたから。[ほぼ正：速い遅いがどういう理由で出現したかの説明不足]</li> </ul>
<p>問 2 洞窟の中に住んでいるホライモリには目がありません。洞窟の外に住んでいたホライモリの祖先には目がありました。どのようにして、ホライモリは目を失ったのでしょうか。流れを詳しく説明してください。</p>
<p>解答例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洞窟の中は暗く、目としての機能が衰え、他の感覚を発達させるために目を失った[誤：用不用と目的論の融合]</li> <li>・暗いところでは目は必要なく、目以外の感覚に優れた個体がたまたま生まれ今のホライモリになった[誤：突然変異の要素も含まれる目的論]</li> <li>・洞窟の中は暗いので光を受容する必要がなく、他の器官を発達させたから[誤：用不用と目的論の融合]</li> <li>・突然変異が起こり目のない個体が現れたが、生存に不都合はなく子孫を残したから[ほぼ正：突然変異+自然選択]</li> <li>・洞窟内では危険が少なく、むしろ器官の生成コストが小さい方が生き残るのに有利だった[ほぼ正：コストに言及した唯一の解答]</li> </ul>

## 6 感想と今後の展望

冒頭に述べた学習指導要領の変更により、模擬試験や共通テストでも生物の進化に関する内容は今まで以上に大きなウエイトを占めるようになった。2024年度の各模擬試験における問題では、変態や獲得形質などの個体レベルでの変化と、進化という世代を超えた変化とを区別できるかを頻繁に問われていた。今後、問題演習を行う際に今回のシミュレー

ションを思い返すことができれば、より理解がしやすいのではないかと思う。授業後には、生徒から面白かったとの感想を聞くこともできた。論文を出発点とする実践により、手順も材料もすべて準備された受動的な実験ではなく、自らが主体となって科学的な活動に取り組むことの面白さを感じ取ってくれたのではないかと思う。

## 文献

- 田川一希(2023) 進化のしくみの誤概念修正を目指したハンズ・オン教材の開発と評価—植物の種子散布形質を題材として—, 生物教育 64(2):103-121
- 梶谷正行(2019) 各生物「オリガミバード」による生物進化の擬似体験系～教材としての有用性, さらに進化の究極系を求めて～, 帝京大学ラーニングテクノロジー開発室年報 16 95-101

## 令和6年度公開授業について【1年生・情報I】

情報科 長澤 尚

- 1 日時・場所 令和6年10月7日（月）1校時 [情報処理実習室]
- 2 対象クラス 1年A組（32名）
- 3 実施概要

- (1) 単元 第2編 第2章 [C] 情報の発信とメディアの性質
- (2) 本時の目標 目的に応じた伝達手段でポスターを作成しよう。
- (3) 本時のねらい

本単元は情報発信における手段やそれらが持つ性質に関する範囲である。本時では諸メディアが有する性質について自分から教科書を開き、必要な情報を収集することを通して学びを深めさせるとともに、ポスターという表現方法が限定された伝達メディアの中で伝えるべき情報の取捨選択とそれらをいかに効果的に示すかを考える情報デザインに関する思考力を刺激することをねらいとしている。

また、本時では「Googleスライド」でポスターを作成させたが、これは次節（プレゼンテーションの単元）でスライド資料の作成を行うことが前提であり、作成のしやすさ、改ページの使い分けと合わせて、予め操作に慣れさせておく目的がある。

自 紹介ポスターを作ろう

長澤尚・10月7日

50点

期限: 10月18日

①伝達メディアの性質や特徴をポスターで紹介しよう。（教p.72、73参照。テーマは1つでも複数でもよい。）  
②「作品カード」に入力し、入力画面内で送信しよう。  
③作品を提出しよう。  
※不明な点は添付のリンク先を、評価についてはルーブリックを参照すること。

ルーブリック: 条件 6 個・50 ポイント

2-2C\_ポスター原版  
Google スライド

2-2C\_作品カード  
Google フォーム

GoogleスライドでA4サイズ...  
YouTube 動画・0分

紹介ポスター 課題詳細.pdf  
PDF

▲図1 Classroomで配信した課題の詳細画面

※課題の詳細はGoogle Classroomで配信した。作成用の原版ファイルは課題として個別にコピーを配付し、作品カードおよび参考動画、説明用スライドは生徒が各自参照できるようリンクを配付している。

### 4 授業での様子

#### (1) 開始直後から作成開始まで

中学校時点でPowerPointの利用経験がある生徒が多かったため、本時で多用する機能を中心に全体説明を行い、その他の補助については個別対応とした。不明な点があれば相談するよう促したが、Web検索から対処法を見つけるなど自主解決できる様子が多く見られた。また8テーマある中から選択する際には、テーマに対してどのような情報を盛り込んだポスターを作成するかに悩み、なかなか作成に移れない生徒が大半である。予め前年

度の作品を例示すればこうした時間は削減できるが、昨年度は例示した作品に影響される者が多く、自発的な思考の機会を奪ってしまったため、今回は行わないものとした。

## (2) ポスター、参考資料一覧、作品カードの作成

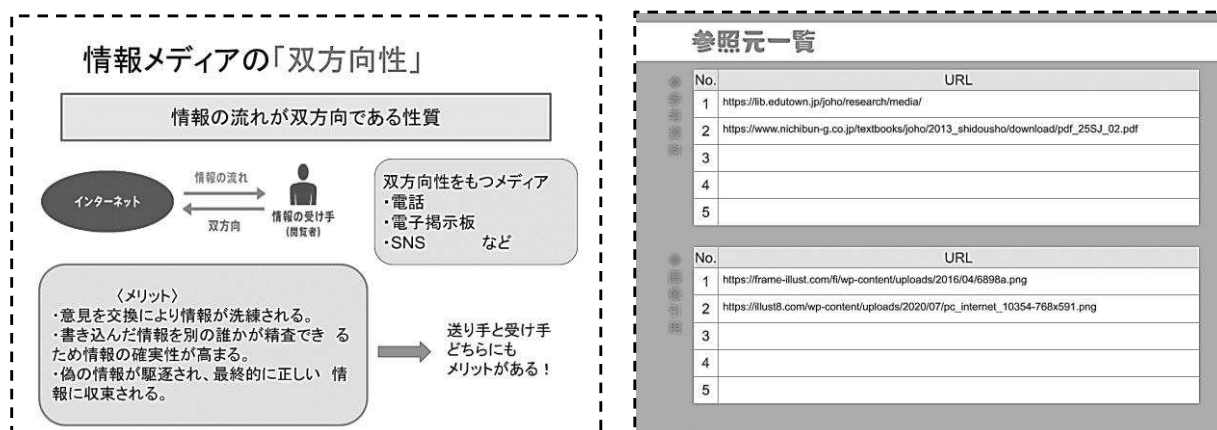
作成は基本機能の組み合わせで対応できており、生徒から挙がる質問は大半がWebからの画像の貼り付けに関するものであった。なお、著作物を参照・引用する場合は資料一覧のページにURLを転記させていたことから、これに対する質問が（先に作業手順を実演していたが）次点として多かった。作品カードへの入力はGoogleフォームを利用しており、この提出はポスターの作成時間を確保するため次回までに行うものとした。

## (3) 授業後の反応

授業では毎時間その回の振り返りをClassiのポートフォリオから提出させている。参考までにこの時間についての振り返りおよび本時で作成した作品を示す。

### <本時の振り返り例>

- 情報デザインにおいて、見る人が分かりやすく、印象に残りやすいことが大切だと学びました。文字の色や大きさ、図の配置やバランスなどを工夫したいです。
- 今までいっぱいポスターを見てきたが、いざ自分が作ってみると何について注目してもらいたいからこう工夫するという風に考えるのがすごく難しかった。
- 最初は細かくまとめていたが、ポスターであることを先生に言われて、見やすさがないことに気づいた。その後、色や下線や箇条書きなど工夫して見やすく簡潔に作ることができた。



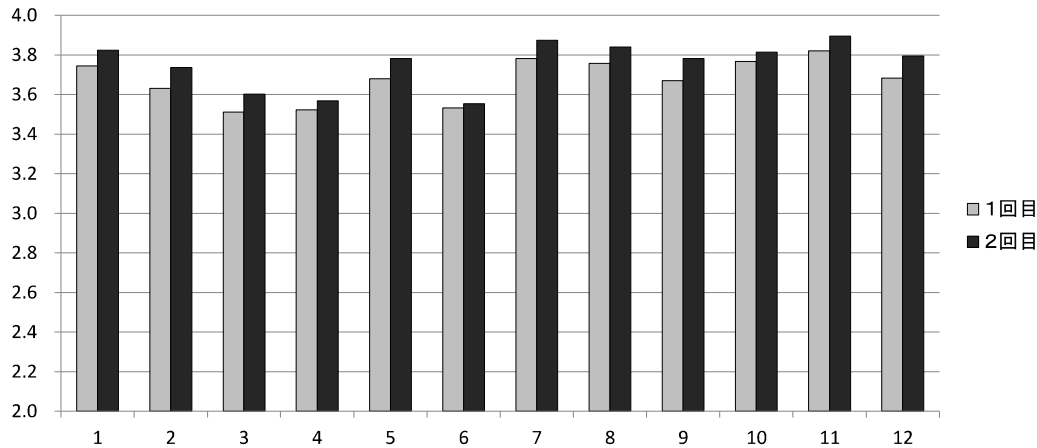
▲図2・3 生徒の作品および参照元一覧

## 5 反省点および今後の課題

指導上のねらいは概ね達成できた。今年度はこうした実習課題について評価の観点をルーブリックで示すことを試験的に行っているが、その効果も手伝ってか想定以上に熟考して課題に取り組むことができる生徒が散見された。一方でそれぞれの参照元一覧にあるURLの件数が1~3件程度に留まっている点から、多方向からの情報収集や精度の検証に向かう意識が薄く、（今回の本題ではないが）喚起の必要性を感じた。今後はこうした情報モラルやリテラシーについても定期的に扱い、意識を継続させる機会を細かく設定していきたい。

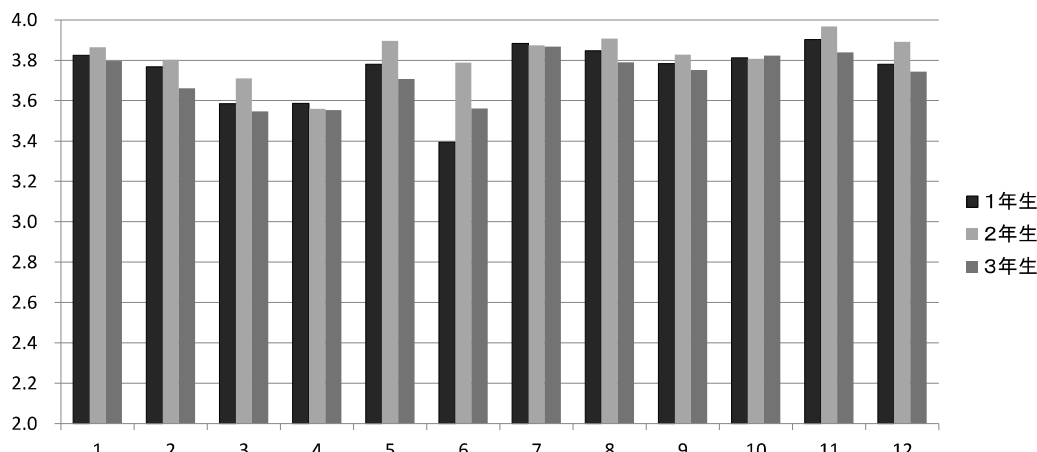
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	国語		1回目	2回目
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.7	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.6	3.7
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.5	3.6
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.5	3.6
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.7	3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.5	3.6
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.9
	8	興味や関心を持って、学力（体力・技能）の向上につながっている	3.8	3.8
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.8	3.8
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.8	3.9
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.8



## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

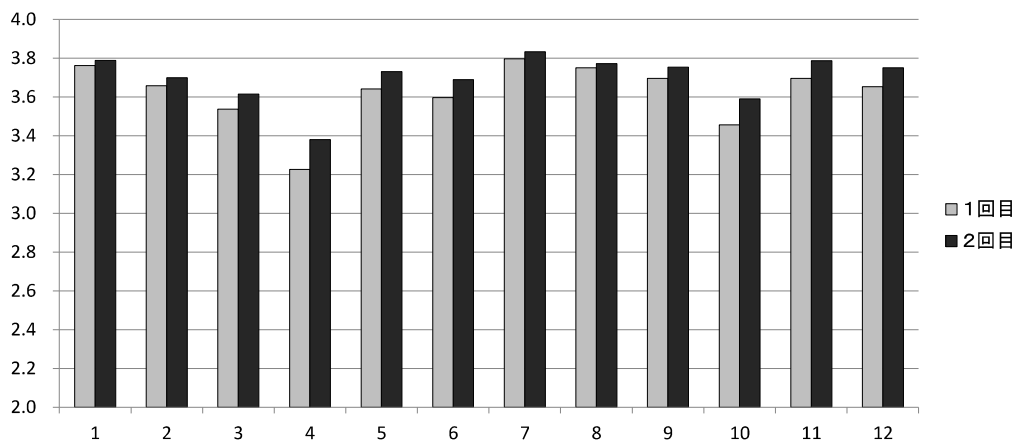
教科名	国語			1年生	2年生	3年生
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる		3.8	3.9	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる		3.8	3.8	3.7
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる		3.6	3.7	3.5
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		3.6	3.6	3.6
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している		3.8	3.9	3.7
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）		3.4	3.8	3.6
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている		3.9	3.9	3.9
	8	興味や関心を持って、学力（体力・技能）の向上につながっている		3.8	3.9	3.8
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる		3.8	3.8	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		3.8	3.8	3.8
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている		3.9	4.0	3.8
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている		3.8	3.9	3.7





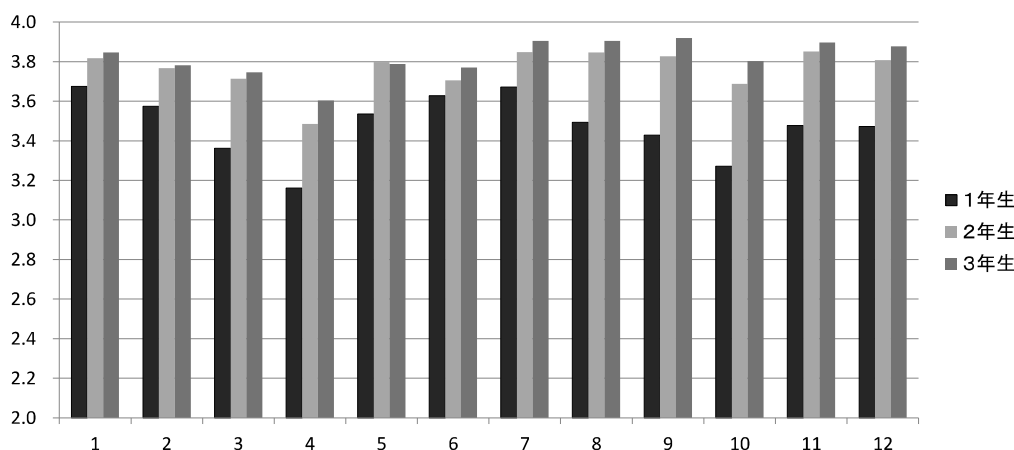
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名		地理歴史・公民	1回目	2回目
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.8	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.7	3.7
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.5	3.6
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.2	3.4
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.6	3.7
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.6	3.7
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.8
	8	興味や関心が持て、学力（体力・技能）の向上につながっている	3.8	3.8
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.5	3.6
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.7	3.8
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.8



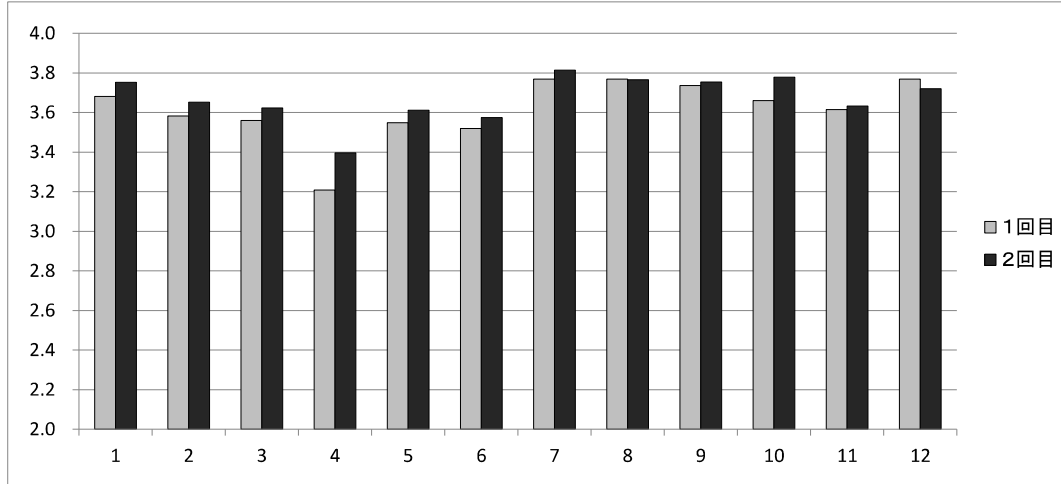
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名		地理歴史・公民	1年生	2年生	3年生
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.7	3.8	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.6	3.8	3.8
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.4	3.7	3.7
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.2	3.5	3.6
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.5	3.8	3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.6	3.7	3.8
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.7	3.8	3.9
	8	興味や関心が持て、学力（体力・技能）の向上につながっている	3.5	3.8	3.9
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.4	3.8	3.9
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.3	3.7	3.8
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.5	3.9	3.9
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.5	3.8	3.9



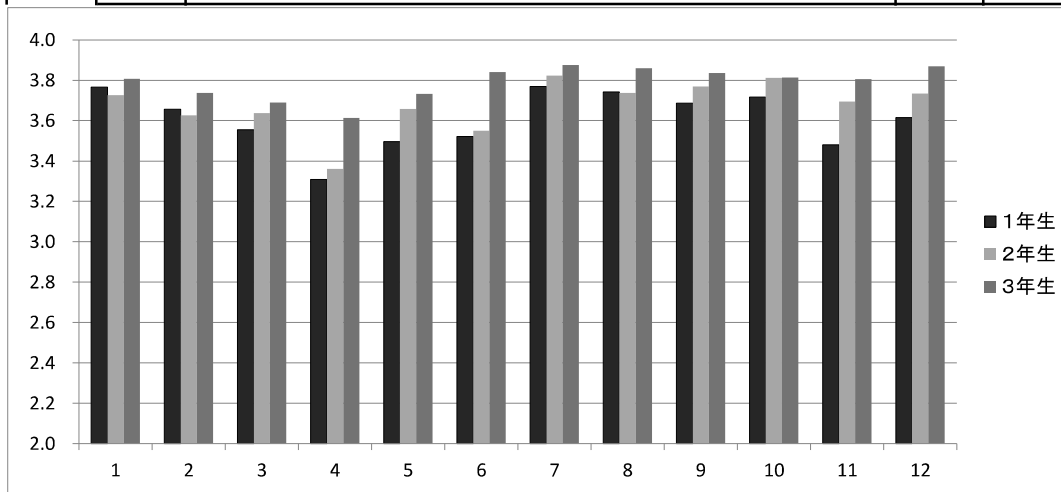
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	数学		1回目	2回目
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.7	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.6	3.7
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.6	3.6
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.2	3.4
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.5	3.6
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.5	3.6
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.8
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.8	3.8
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.7	3.8
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.6	3.6
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.8	3.7



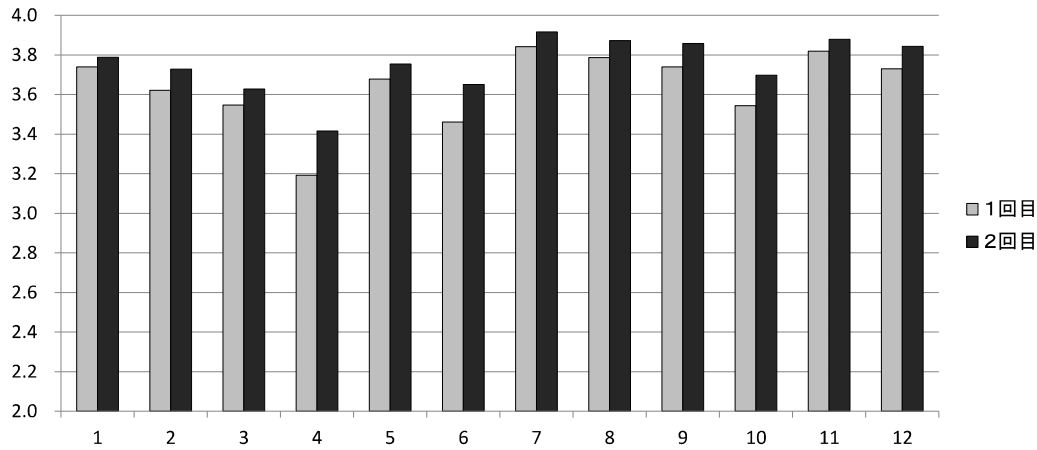
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	数学			1年生	2年生	3年生
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる		3.8	3.7	3.8
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる		3.7	3.6	3.7
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる		3.6	3.6	3.7
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		3.3	3.4	3.6
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している		3.5	3.7	3.7
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）		3.5	3.6	3.8
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている		3.8	3.8	3.9
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている		3.7	3.7	3.9
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる		3.7	3.8	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		3.7	3.8	3.8
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている		3.5	3.7	3.8
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている		3.6	3.7	3.9



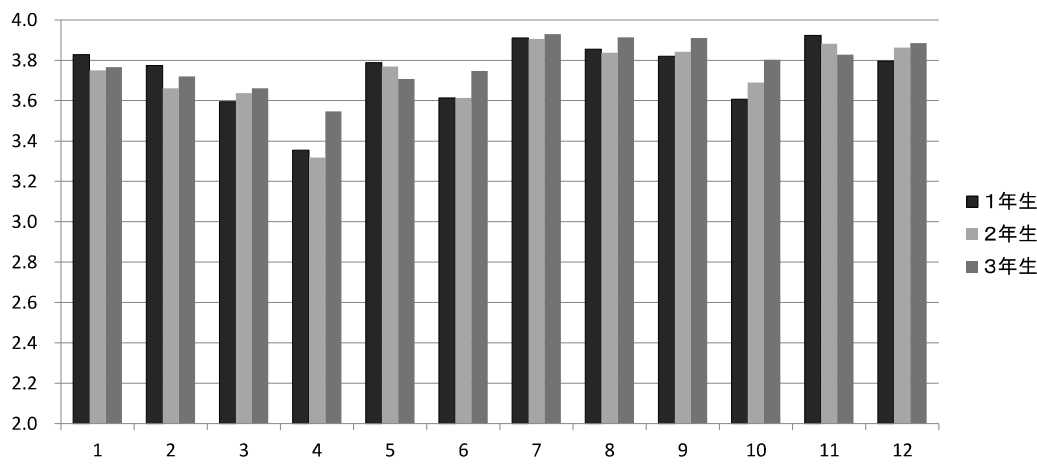
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	理科	1回目	2回目
質問項目	1 授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.7	3.8
	2 学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.6	3.7
	3 進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.5	3.6
	4 予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.2	3.4
	5 意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.7	3.8
	6 学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.5	3.7
	7 授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.9
	8 興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.8	3.9
	9 将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.9
	10 予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.5	3.7
	11 意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.8	3.9
	12 授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.8



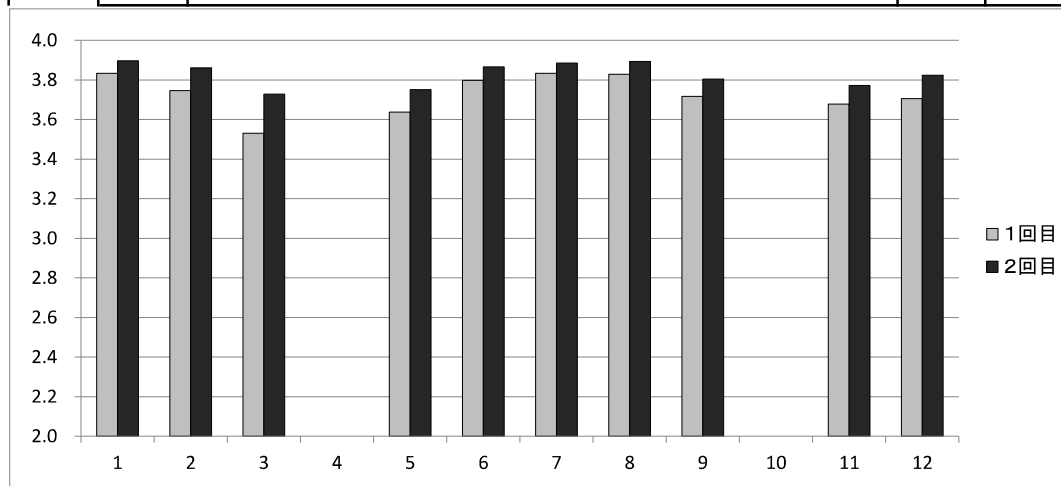
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	理科	1年生	2年生	3年生
質問項目	1 授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.8	3.8	3.8
	2 学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.8	3.7	3.7
	3 進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.6	3.6	3.7
	4 予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.4	3.3	3.5
	5 意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.8	3.8	3.7
	6 学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.6	3.6	3.7
	7 授業のねらいがわかりやすく示されている	3.9	3.9	3.9
	8 興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.9	3.8	3.9
	9 将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.8	3.8	3.9
	10 予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.6	3.7	3.8
	11 意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9	3.9	3.8
	12 授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.8	3.9	3.9



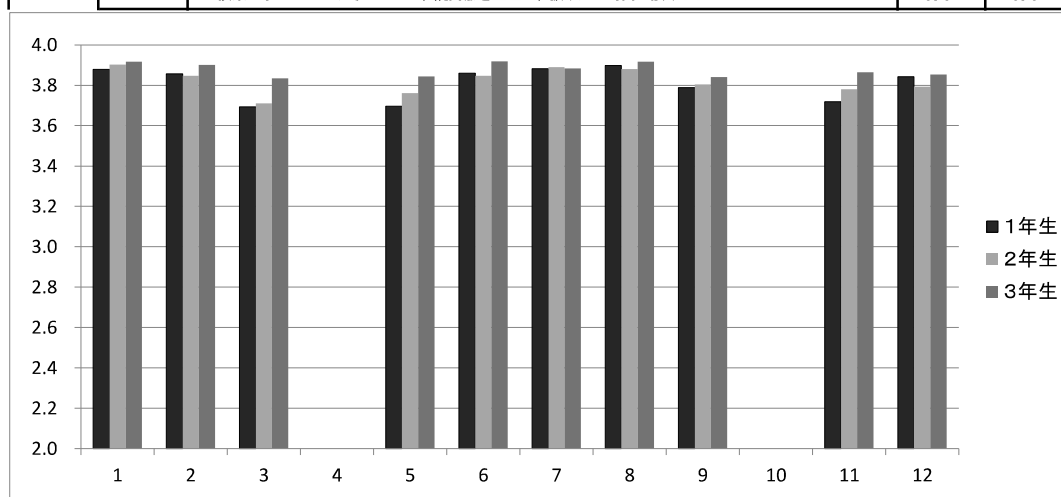
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	保健体育		1回目	2回目
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.8	3.9
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.7	3.9
	3	進みたい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.5	3.7
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.6	3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.8	3.9
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.9
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.8	3.9
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.7	3.8
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.8



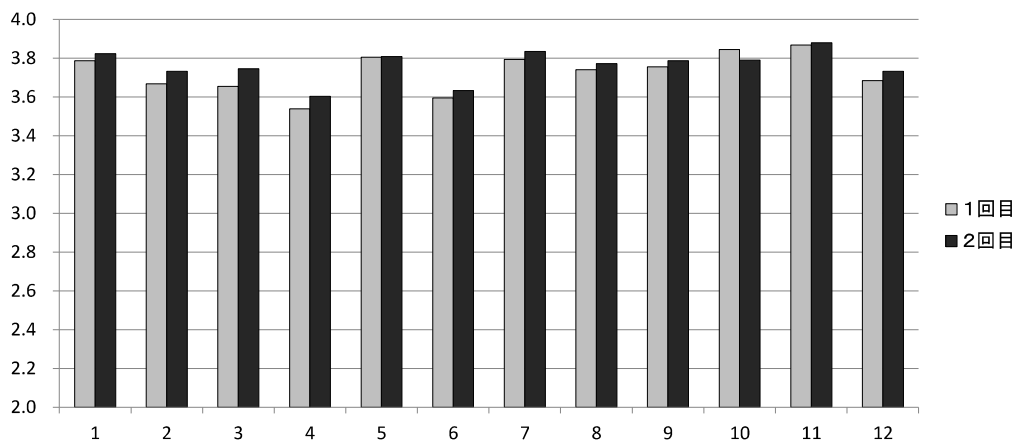
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	保健体育			1年生	2年生	3年生
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる		3.9	3.9	3.9
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる		3.9	3.8	3.9
	3	進みたい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる		3.7	3.7	3.8
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）				
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している		3.7	3.8	3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）		3.9	3.8	3.9
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている		3.9	3.9	3.9
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている		3.9	3.9	3.9
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる		3.8	3.8	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）				
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている		3.7	3.8	3.9
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている		3.8	3.8	3.9



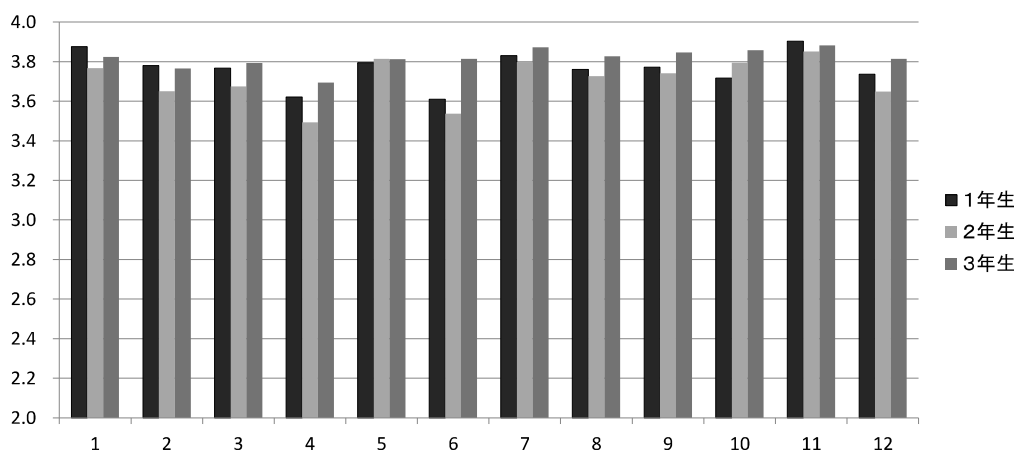
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	英語	1回目	2回目
質問項目	1 授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.8	3.8
	2 学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.7	3.7
	3 進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.7	3.7
	4 予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.5	3.6
	5 意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.8	3.8
	6 学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.6	3.6
	7 授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.8
	8 興味や関心が持て、学力（体力・技能）の向上につながっている	3.7	3.8
	9 将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.8	3.8
	10 予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.8	3.8
	11 意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9	3.9
	12 授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.7



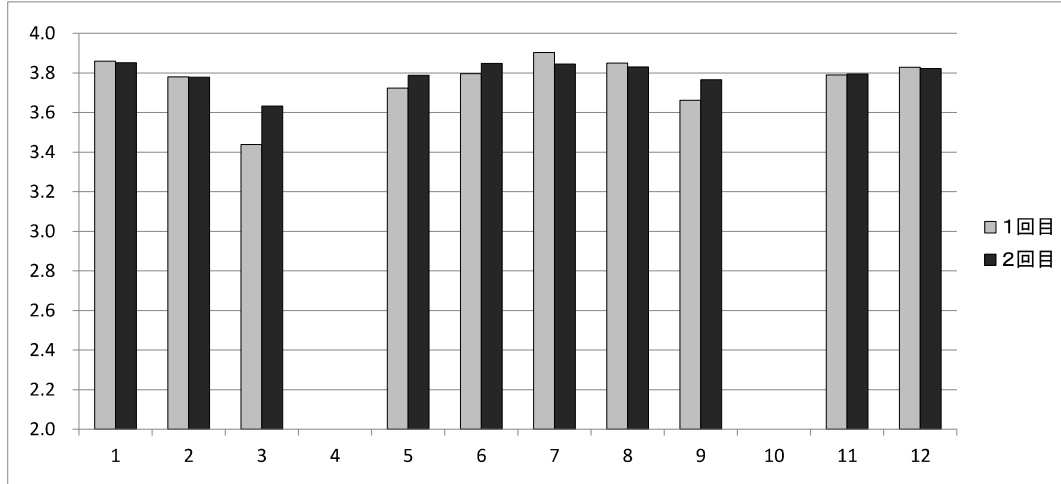
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	英語	1年生	2年生	3年生
質問項目	1 授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.9	3.8	3.8
	2 学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.8	3.7	3.8
	3 進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.8	3.7	3.8
	4 予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）	3.6	3.5	3.7
	5 意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.8	3.8	3.8
	6 学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.6	3.5	3.8
	7 授業のねらいがわかりやすく示されている	3.8	3.8	3.9
	8 興味や関心が持て、学力（体力・技能）の向上につながっている	3.8	3.7	3.8
	9 将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.8	3.7	3.8
	10 予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）	3.7	3.8	3.9
	11 意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9	3.9	3.9
	12 授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.6	3.8



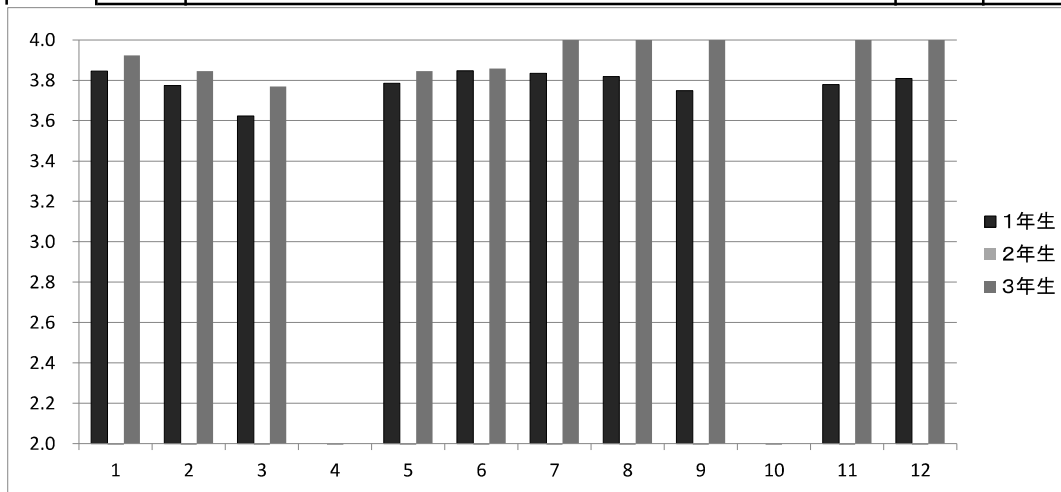
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	芸術		1回目	2回目
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.9	3.9
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.8	3.8
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.4	3.6
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.7	3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.8	3.8
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.9	3.8
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.8	3.8
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.8	3.8
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.8	3.8



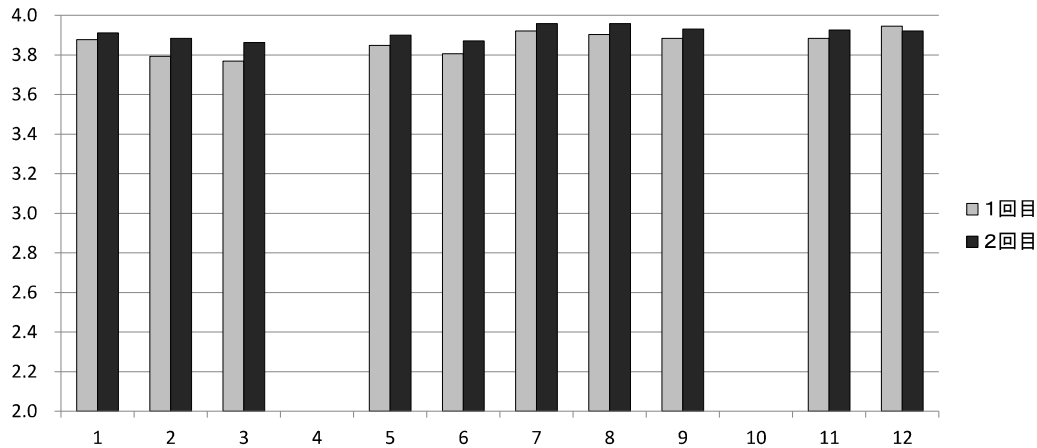
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	芸術			1年生	2年生	3年生
質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる		3.8		3.9
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる		3.8		3.8
	3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる		3.6		3.8
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）				
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している		3.8		3.8
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）		3.8		3.9
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている		3.8		4.0
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている		3.8		4.0
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる		3.7		4.0
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）				
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている		3.8		4.0
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている		3.8		4.0



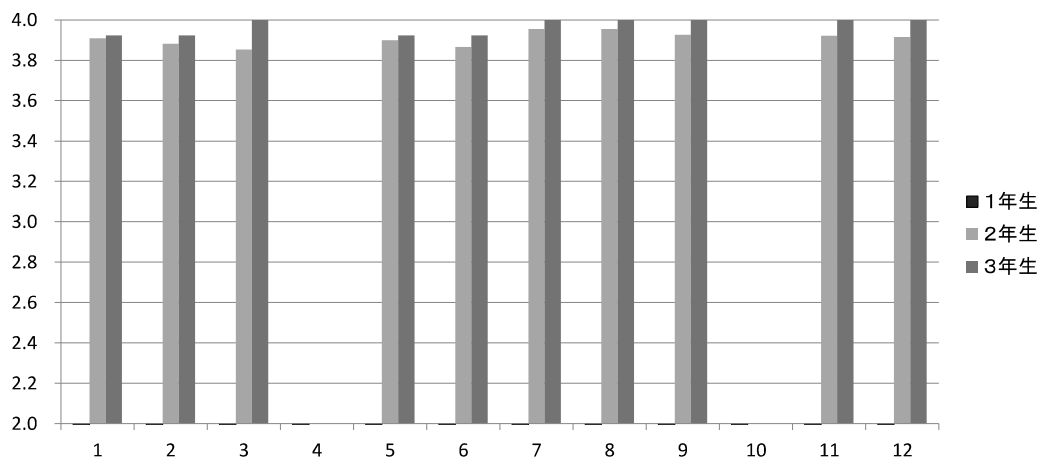
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	家庭		1回目	2回目
	質問項目	1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.9
	2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.8	3.9
	3	進みたい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.8	3.9
	4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		
	5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.8	3.9
	6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.8	3.9
	7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.9	4.0
	8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.9	4.0
	9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.9	3.9
	10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		
	11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9	3.9
	12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.9	3.9



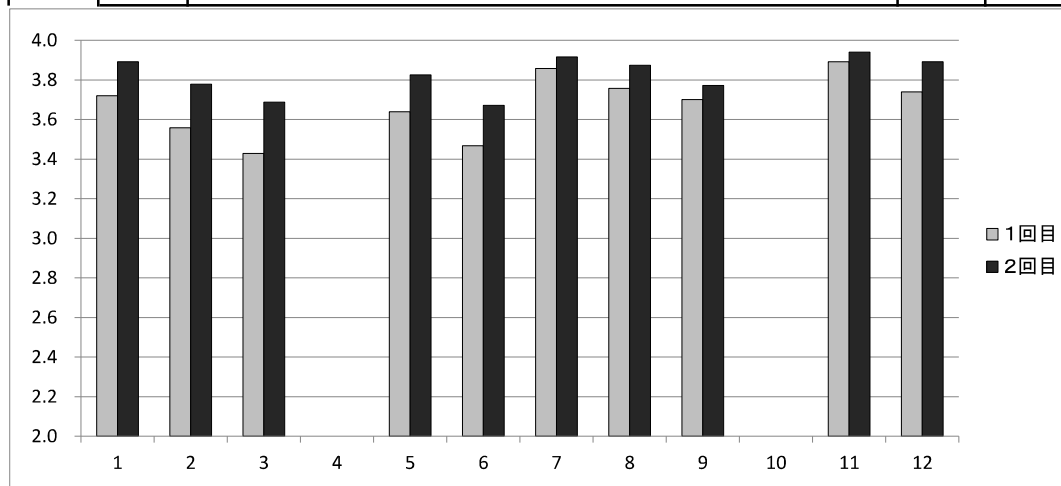
## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	家庭		
	1年生	2年生	3年生
質問項目	1	2	3
	1	3.9	3.9
	2	3.9	3.9
	3	3.9	4.0
	4		
	5	3.9	3.9
	6	3.9	3.9
	7	4.0	4.0
	8	4.0	4.0
	9	3.9	4.0
	10		
	11	3.9	4.0
	12	3.9	4.0



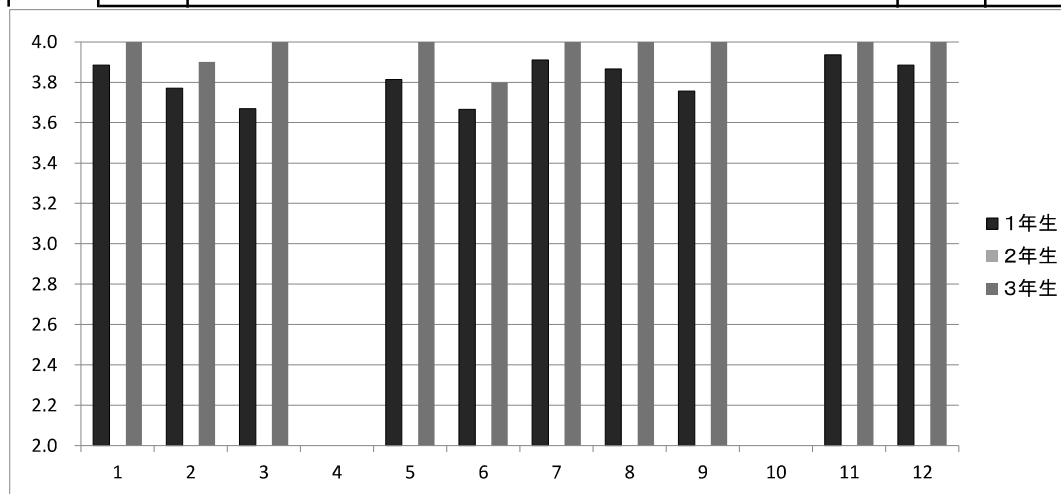
## R06 第2回授業アンケート 教科全体の平均値

教科名	情報	1回目	2回目
		1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる
2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.6	3.8
3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.4	3.7
4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）		
5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.6	3.8
6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.5	3.7
7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.9	3.9
8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.8	3.9
9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.7	3.8
10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）		
11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9	3.9
12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.7	3.9



## R06 第2回授業アンケート 学年別の平均値

教科名	情報	1年生	2年生	3年生
		1	授業のねらいをふまえ、主体的に取り組んでいる	3.9
2	学びへの興味・関心を持ち、学力（体力・技能）が向上していると感じる	3.8		3.9
3	進学したい学校や就きたい職業等を意識して取り組んでいる	3.7		4.0
4	予習や復習などの準備をして授業に臨んでいる（5教科のみで回答してください）			
5	意見交換、学び合い、発表等の言語活動に主体的に参加している	3.8		4.0
6	学習と部活動の両立ができている（部活動所属生徒のみ回答してください）	3.7		3.8
7	授業のねらいがわかりやすく示されている	3.9		4.0
8	興味や関心を持って、学力（体力、技能）の向上につながっている	3.9		4.0
9	将来の進路実現や生き方に役立つような工夫が適宜見られる	3.8		4.0
10	予習を前提に授業が効果的に組み立てられている（5教科のみで回答してください）			
11	意見交換、学び合い、発表等の言語活動が設けられている	3.9		4.0
12	授業で学んだことや考えたこと、疑問点を整理し、振り返る時間が設けられている	3.9		4.0





## 令和6年度秋田県公立高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

教諭 杉渕 茂利

### 1 はじめに

教員になり11年が経過したが、初任の頃と比較すると時代の変化が著しく、多様性の世の中における生徒指導の在り方など、教育について考えさせられることが多くなってきた。この中堅教諭等資質向上研修という機会を活用し、今後の教員としての在り方を再構築することをねらいとし研鑽を重ねた。変化し続ける社会で教育に求められる役割を的確に把握し、生徒の最適な学びの実現のために、変化に柔軟に対応できる教員を目指したい。ここでは、校外研修、選択研修、特定課題研究について触れる。

### 2 校外研修の日程・内容

4月18日(木) 基礎研修(ガイダンス・協議・情報交換)

6月25日(火) 研修講座Ⅰ期(オンライン実施)

○教育公務員の服務(講義・演習)

○学校の危機管理(講義・演習)

○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略(講義・演習)

7月22日(月)～23日(火) 選択研修(ヒロスポーツ企画)

8月2日(金) 研修講座Ⅱ期

○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進(講義・協議・演習)

9月4日(水) 授業研修(秋田県立秋田工業高等学校)

9月19日(木) 研修講座Ⅲ期

○人間としての在り方生き方を考える道徳教育(講義・協議・演習)

○いじめの理解と対応(講義・演習)

○気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解(講義・協議)

10月17日(木) 研修講座Ⅳ期

○学校全体で取り組む情報教育(講義・演習)

○教育活動全体を通じたキャリア教育(講義・協議)

○これからの学校教育(講話)

### 3 選択研修 研修先：ヒロスポーツ企画

#### (1) 研修の日程

7月22日(月)～23日(火) 9:00～17:00

オリエンテーション、物品の整理・運搬作業、来客対応、記録及び振り返り

#### (2) 研修の概要

2日間の研修の両日ともに、オリエンテーションを実施し、日本スポーツ用品協同組合スポーツ用器具管理アドバイザーである佐々木代表から用具や施設設備の安全性についての指導をいただき、その上で保守点検にかかる費用やお金の流れ、用具の納品や設置に関する方法を学んだ。また、店舗での来客対応などを通して実際の業務について体験させていただいた。

#### (3) 研修の成果

本研修は普段授業や部活動で使っている用具や施設の安全を管理する上での注意点について、改めて学ぶ機会となった。スポーツ器具は、激しい運動を伴うことから誤使用や製品に欠陥があ

ると最悪の場合命に関わることがあるため、安全な製品の製造・販売をすることがスポーツ店やメーカーなどの販売者側に法律で義務づけられている。それと同時にユーザーによるリスク回避の義務も生じる。つまりはスポーツ器具を使う側、使わせる教員側にも大きな責任があるということになる。日常の保守点検に加え、本来であれば専門業者によるメンテナンスを定期的に行うことが推奨されているが、メーカーやスポーツ店から点検や更新の打診をしても、予算等の関係で一朝一夕ではいかなないのが現状だということが分かった。そうなったときに重要になるのが毎日の日常的な点検であり、授業や部活動で使う用具や環境の安全性をしっかりと確認し、必要に応じて動作確認や点検を実施していくことが重要である。それと同時に使用者である生徒自身にも正しい使用方法を徹底させるとともに、安全な点検の仕方や用具の危険性を学ばせる機会を設ける必要があると感じた。

選択研修では、今まで以上に安全について考える非常に良い機会となった。また、保守点検の方法等を具体的にアドバイスしていただいたことで安全確保の方法が明確になったと感じている。今回の研修で学んだことを生かし、生徒が安全・安心な環境で運動やスポーツができるよう指導していきたい。

#### 4 特定課題研究

##### (1) 研究の概要

安全な学校生活を送るためには、様々な生活場面において事故やケガのリスクを理解し対策、排除していく必要がある。本研究ではその中でも自身の指導する保健体育や部活動の中における事故やケガのリスクについて調査・研究した。

##### (2) 成果と課題

事故やケガの発生には、主体要因、環境要因が存在する。主体要因には準備運動不足や日頃の運動不足、運動経験の少なさ、疲労や睡眠不足を含めた体調、注意不足などが含まれ、事故やケガの約60%はこれらが原因のものだと考えられている。残りは、活動状況や活動内容、気象条件、施設・設備の状況、使用する用具などに起因する環境要因である。

保健室の月別利用状況を見ると例年4月、8月、1月、2月にケガをして保健室を利用した生徒が多くなっていることが分かった。4月は春休みの運動不足の2、3年生に加え、入試でさらに長い間運動不足だった新入生がケガをするケースが多かった。また、学校行事的にも運動会の実施があり、件数が増えていると考えられる。令和6年度に限って言えば、運動会の実施が5月だったこともあり4月よりも5月が多くなっている。また、8月は夏休み明けという要因もあるが、クラス対抗でケガをするケースが多発したことで件数が多くなったと考えられる。このように学校生活においては、主体要因に活動内容や活動状況に起因する環境要因が加わることで事故・ケガの発生が多くなることが分かった。1月、2月に関しては学校行事的な要因はないため、考えられるのは体育の授業内容である。この時期はコンタクトスポーツであるバスケットボールとサッカーを同時に展開している時期であるため、ケガをする生徒が多くなったと考えられる。実際に生徒に実施したアンケートでは、9.9%の生徒が「体育の授業における事故やケガのリスクを感じたことがある」と回答しており、その要因で最も多かったものがコンタクト競技における接触や転倒などに起因するものであった。とりわけ多かったものがバスケットボールに関する記述である。ボールをキャッチできずに突き指した事例や顔にボールがあたったという主体要因に加え、接触や着地の際の捻挫など環境や状況に左右される環境要因がケガの主な原因だと考えられる。また、ケガには至らなかったものの、他のプレーヤーとの接触（ファウル等）の機会に事故やケガのリスクを感じたという記述が多かった。これには知識として反則を理解するだけで

はなく、どの程度のプレーが反則となるのかなどについて実践をとおして学ばせる必要があると感じた。同じコンタクト競技であるサッカーにも同様のリスクがあり、リスクを感じる場面も多いようだったが、その他に記載があったのが用具の準備の場面である。競技の経験が無い生徒が用具を準備する際に、誤った方法で準備してしまうと事故やケガのリスクが高まる。選択研修の際に、用具の設置の際のリスクと事故事例などについても学んだが、最も事故の件数が多いのが卓球台の設置時の事故であった。指を挟んだり一人で設置しようとして転倒してきた台の下敷きになったりするなど複数の事例があった。その他に事例が多かったのがバレーボールのネットの設置時である。無理な設置方法でワイヤーが切れたり、支柱を外す際に足に倒してしまったりする事例があった。今回のアンケートではどの種目の準備の場面かという記載は無かったが、用具の扱いに詳しい人に聞いて対応したとの記載があり、自ら主体的に事故やケガを回避することができていた。いずれにしても用具設置時の事故予防策としては、準備の前に準備の仕方や危険性について理解させることが必要であり、対策や丁寧な指導が求められる。

部活動に関しては、自身の指導する陸上競技部に限定してアンケートを実施した結果、31.4%の生徒が部活動中に事故やケガのリスクを感じたことがあると回答した。その大半は、スポーツ障害としてのケガのリスクであり、主体要因、環境要因の両方が原因として考えられるものだった。それぞれ対応策を考え対処していることがほとんどであったが、環境要因として道路の凍結時の練習、アスファルトでの練習などは、ケガの予防のためにさらなる工夫と安全策を講じたいと感じた。また、これまで全国的に多くの事故事例があるのが投てき種目である。安全管理・安全確認は徹底してきたつもりであるが、それでも危険を感じる場面があったとの記載があり、これまで以上の安全対策を講じる必要があることと、用具や設備が事故の原因に直結する場合があるため、点検等についてもルールを作るなどして今まで以上に対策していきたいと感じた。

今回の特定課題研究では、普段学校や授業、部活動で起きている事故やケガには必ず原因があるということや、小さな事故やケガがあるということは大きな事故やケガにつながるリスクも存在しているということに改めて気付かされた。予防・対策には、環境を提供する立場にある教員がより安全な環境を設定することが重要であると同時に、運動の仕方、用具の安全確認、点検の方法までを生徒とも共有し、生徒自身が安全に運動を実践したり生活を送ったりすることができる資質や能力を育成することが大切だと感じた。これらの経験を生かし、自身の安全意識の向上とともに、学校生活や授業をとおして生徒の生きる力の育成につながるような指導に努めていきたい。

## 5 中堅教諭等資質向上研修のまとめ

本研修を通して、たくさんの方々からご指導・ご助言をいただくことができた。

校内外の研修での学びをとおして、学ぶことの楽しさや学び続けることの大切さを再確認できたと感じている。自身の学びや成長が、生徒の成長に直結するということを自覚し、これからも研鑽を重ねていきたい。また、今後は学校運営への参画やミドルリーダーとしての役割も担う立場になってくる。本研修をとおし培った中堅教諭としての自覚をもち、学校運営や本県教育の充実に少しでも寄与できるよう努めていきたいと考える。

最後に、ご指導いただいた校内外の先生方をはじめ、中堅教諭等資質向上研修に携わっていただいた多くの方々に深く感謝申し上げます。

## 総合教育センター研修 A-25 実践的指導力発展研修講座

芸術科 森 久樹

日時	令和6年8月5日(月) 10:00~16:15
場所	秋田県総合教育センター
日程	10:00~10:15 挨拶 秋田県総合教育センター 主幹 日沼 良樹 10:15~12:00 実践的指導力発展講座① -キャリアデザイン- 秋田県総合教育センター 主任指導主事 伊藤 文子 13:00~14:30 実践的指導力破天荒座② -コーチングの基礎- 秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 戸田 信彦 14:45~16:05 学校組織の一員として 秋田県総合教育センター 主任指導主事 伊藤 文子 16:05~16:15 研修の振り返り

所見 年齢指定の特定主任未経験者が対象の講座に参加した。受講者が原則同い年であったことから、異校種であるにもかかわらず親近感を感じながら参加できた。小学校8名、高等学校11名、特別支援学校2名、計21名の教諭が参加した。指導主事の先生も同年代と推測され、懐かしささえ感じる空間だった。

この研修は、ある特定の主任経験者が免除されるが、過去に自分が仰せつかった「特別活動部主任」と「保健主事」は今回の条件に適応されない。学びが多かっただけに特別活動主任が「主任経験」として認められないのは残念である。

午前中のキャリアデザインでは、曼荼羅チャートをつかった若手教員の育成について目標達成の道筋を考える時間であった。研修の内容は若手を指導する立場にあるという趣旨ではあったが、今は若い人がいない。自分が若手の時と変わらない仕事を今もやらせていただいている現状なので、遠い未来の自分のためになると信じて、講座の内容を心に刻むことにした。所属校での1日研修として充てられたレポート作成は、実際には3日かかった。振り返る機会としては良かったが、毎年連続で3年生の就職担当をしているため、この8月はとても厳しかった。通常業務のために休日返上した時間を返上して書いた。時代は常に変化し、学校を取り巻く環境は昔と同じではないと肌で感じている。学ぶ視点を大切にするという、生徒に対する関わり方は初任時代から変えていないが、教育現場を取り巻く環境は大きく変化している。学校への世の中の期待値は上がる一方であるが、同時に現場が疲弊していることも注目されてきている。若手育成がテーマであったが、「教師という仕事の魅力」は若い世代がどう感じているのか。「無い」なかで「有る」ものをどう活かすのか、どう工夫するのか。答えを出す前に、新しい課題が現状を追い抜いている。我々には、さらなる高次元の課題解決能力が求められていると認識した。

# 高等学校新任学年主任研修を終えて

教諭 木村 滋

## 1 はじめに

今年度、初めて学年主任として学年の運営を行うことになり、高等学校新任学年主任研修に参加した。学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高めることを目標にこの研修に参加した。

## 2 研修の日程・内容

5月28日（火）研修講座Ⅰ期

- 望まれる学年主任像と学年主任の役割（講話）  
秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 湯澤寛
- 学年経営の実際（実践発表）  
秋田県立湯沢高等学校 教育専門監 平田恵子
- 学年経営と組織マネジメントの基礎（講義・演習・協議）  
秋田県総合教育センター 主任指導主事 山田直康  
秋田県総合教育センター 主任指導主事 鈴木紀子

6月27日（木）研修講座Ⅱ期

- 生徒指導における学年主任の役割（講義・演習）  
秋田県総合教育センター 指導主事 高橋真理奈
- 学年経営における課題への対応（協議）  
秋田県総合教育センター 主任指導主事 鈴木紀子
- 思春期の揺れと成長をともに歩む（講話）  
秋田赤十字病院診療センター 臨床心理士 丸山真理子

### 【研修講座Ⅰ期】

最初の講話では学年経営について説明していただいた。学年の立ち位置、指導内容の明確化（学年の約束事）、教員の指導姿勢、危機管理とコンプライアンスについて詳しく説明があり、学年主任として心がけることを学ぶことができた。特に、言葉、行動には自分の性格が出るため、気をつけなければいけない。「思っていることは言わない。考えたことを話す。」という言葉が印象的であった。

また、学年経営の実際では昨年度まで学年主任をしていた先生の経験談を伺ったり、学年経営と組織マネジメントについての講義や演習を行ったりした。組織マネジメントの講義から学年主任として、たて、よこのつながりが大切であることを学んだ。学年主任1人が行えることは限りがあるので、1人で仕事を抱え込むのではなく、周囲とコミュニケーションを取り、連携の橋渡しを行うことが大切であると感じた。

学年経営と組織マネジメントの基礎では、学年経営の機能や学年主任の実務について学ぶことができた。学校の経営方針に則した統一性（協働性）の機能や調整的機能、学年の生徒を集中して捉え指導に責任を持つ機能などあらためて確認することができた。学校におけるミドルリーダーとして使命感と責任感を持って行動していかなければいけないと感じた。

## 【研修講座Ⅱ期】

最初の講義・演習では生徒指導における学年主任の役割について説明していただいた。生徒指導の基本は生徒理解であることをあらためて確認することができた。不登校生徒への支援の方向性や保護者との連携など非常に参考となる内容であった。保護者との連携では次の4つのステップを確認することができた。

1. 保護者の怒り、不信の感情を受け止める。
2. 教師の対応を説明する。
3. どのような対応を教師に期待していたのかを質問する。
4. 教師と保護者が連携して対応していくことを確認する。

学年経営における課題への対応についての協議や、思春期の揺れと成長を共に歩むをテーマに講話をしていただいた。協議では各校の課題と取組について情報交換することができた。クラス担任の業務分担など本校でも取り入れられるような内容もあり、有意義な時間となった。また、講話では問題になりがちな生徒へのタイプ別基本対応について説明していただいた。主なタイプは以下のとおりである。様々な生徒に対してどのように対応したらいいのかを確認することができた。

1. 頭をほぐして選択肢を増やすのが必要なタイプ（緊張抑圧型）  
自信がないため本心や持ち味を抑え込んで動けなくなっている  
⇒本人がやっている事をきちんと認めてやるだけで、葛藤を扱わなくても止まっている部分が伸びていき発達・成長を遂げることが多い。
2. 振り回されないことが大事なタイプ（愛着障害型）  
不安や不快など内的な衝動を抱えることができずに行動化（まき散ら）してしまう  
⇒目標を明確にかつ具体的に立て、時間や場所を決めて、「私とあなたが会うのは～のため」と明確にしながら関わる。行動化をコントロールしていく。
3. 下手に触っちゃいけないタイプ（エネルギー枯渇型）  
エネルギーが低下している時は、良かれと思ってやったことが本人を苦しめ、“つつき壊す”こともあるので注意が必要。  
⇒「大丈夫だからほっといて」「この方が落ち着く」などと言える時や話しぶりや様子から、疲れた状態や気持ちがわかるような時は、“こもって休む”ことを保障・奨励し、見守る。  
※ただし、了解不能な時、まとまりがない時、不眠が続いている時は専門家の援助を受けるようアドバイスする。

### 3 高等学校新任学年主任研修を終えて

本研修を通して、たくさんの方々からご指導・ご助言をいただくことができた。学年主任として最も大切な役割とは、連携の橋渡し（情報共有）であることをあらためて確認することができた。この1年、管理職・分掌主任・他学年の学年主任等に何でも相談することを意識して行ってきた。学年部職員ともコミュニケーションを取り、目標の実現に向けた計画と方法を全員で考え、実践していきたいと考えている。

# 令和6年度高等学校講師等研修講座を受講して

伊藤 光希

## 1 はじめに

今年度、初めての秋田県での勤務となるため、初任者の講師を対象とする本研修を受講した。教育公務員としての考え方から教員の業務の核となる授業づくりについてまで、公立学校に勤務するうえで必要となる資質能力の向上を図ることができた。

## 2 研修内容（抜粋）

### 2-1 教育公務員の服務

地方公務員法に定められている職務上の義務および身分上の義務、学校教育法に定められている教職員の職務などについて講義により学んだ。特に信用失墜行為については、具体的な事例に対する対策を考える演習も行った。近年見られる飲酒運転や生徒に対する不適切な発言について、未然に防ぐための方策を考え、受講者同士で意見交換を行った。

昨年度まで県外の私立学校での勤務であったため、服務についてその多くは初めて知る内容であった。これから公務員の立場となる際に必要とされる自覚の形成ができた。

### 2-2 授業づくりについて

学校教育の指針における令和6年度の重点および基本となる授業の形について講義により学んだ。

令和6年度の重点として「『問い』を発する子ども」の育成」が掲げられている。数学科においては「自ら問いを見だし、数学的な見方・考え方を働かせながら問題解決に取り組む授業づくり」が求められることが取り上げられた。

また、授業の基礎・基本をまとめた「あきたのそこぢから」が紹介された。（右表）

その中の「た 確かな発問が授業を変える」に関して、質問（本文を見れば分かるもの）と発問（思考・認識過程を経るもの）の違いが示され、授業では質問に終始せず状況に応じた豊かな発問を要することが述べられた。数学の授業においても「ここに入る式は何ですか。」と聞くより「この式はどういった過程で導かれましたか。」と聞く方が、生徒はより高次な思考・説明を行うと考えられる。普段の授業の中でも後者のような発問を意識的に行う必要があると感じた。

#### 「あきたのそこぢから」

- あ あなたはどのような表情で授業をしていますか？
- き 教師が輝く瞬間も必要です
- た 確かな発問が授業を変える
- の ノート指導は、子どもをよく見ることです！
- そ 相互に啓発する授業を（話し合い、学びあい）
- こ 子どもの思考の足跡が分かる板書に
- ぢ ちゃんと考えをもたせる助言の在り方
- か 活発な発言が本当の理解につながる
- ら ランダムになんとか教室内を歩いていませんか？

## 3 おわりに

私は、教職自体は1年目ではないが、多くの学びがある研修であった。これまでの他県での教員生活を振り返ると、業務をこなす学校を回すことに終始しがちであったように思う。一方で教育公務員特例法にあるように、我々には職責遂行のため絶えず研究と修養に努める義務が課せられている。そのためには自身の行う教育活動を振り返り、絶えず改善していく姿勢が必須である。そういった意識をもつ契機として、本研修は大変有意義なものであった。

令和6年度 専門研修講座  
人間関係づくりに生かす構成的グループエンカウンター

日時：令和6年7月29日（月）

10：00～16:15

講師：南かがやき教室

教育相談員 佐藤 さゆ里 先生

会場：秋田県総合教育センター 大研修室

報告：秋田県立本荘高等学校

教諭 藤原 直哉

本研修の目標は、「学級における人間関係づくりや、教職員と児童生徒の信頼関係を築くために有効な構成的グループエンカウンターについて、体験を含む研修を通して具体的に学び、学校で実践する能力の向上を図る」である。生徒同士の人間関係づくりや生徒との信頼関係を築くために、「構成的グループエンカウンター」が有効だと考え、本研修を受講した。以下、研修内容について本校での実践を交えて報告する。

### 1. 構成的グループエンカウンターとは

「構成的グループエンカウンター」(Structured Group Encounter 以下「SGE」)は、1965年に國分康孝によって紹介・提唱されたのが始まりである。片野(2003)の解説・整理によれば、SGEとは「対象、グループ、エクササイズ、時間をセッティング」した上で、「エンカウンターをグループを通して行う」ものである。「エンカウンター」とは「ホンネとホンネの交流や感情交流ができるような親密な人間関係(体験)」のことを指す。すなわち、SGEとは、意図的・計画的になされる、ホンネや感情の交流である。

### 2. 構成的グループエンカウンター 指導事例

SGEの指導事例として、入学式の日々のLHRで実施した「他己紹介」を挙げる(【図1】)。この事例は、稿者の過去の実践をもとに、本研修で学んだことを盛り込んだものである。

	授業者	「これから1年間、同じクラスで勉強するクラスメイトのことを知るために、『自己紹介・他己紹介』をしましょう。まず、隣の人と2人組を作って、お互いに自己紹介をします。次に、4人組を作って、隣の人のことを紹介します。」	インストラクション
--	-----	--	-----------

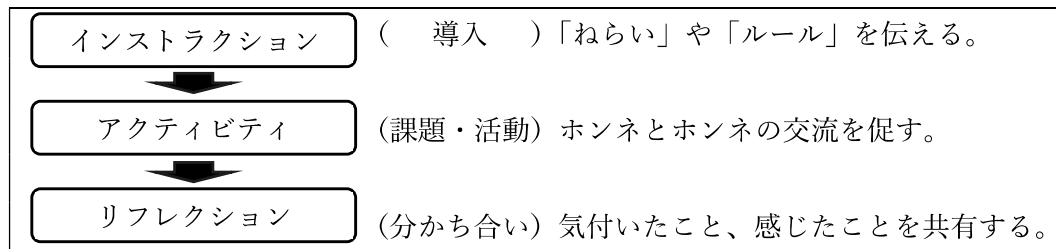


	授業者	<p>「では、隣の席の人と2人組を作り、2分間でお互いに自己紹介してください。自己紹介で話すことが見つからない人は、スクリーンに自己紹介で話しやすいことを映したので見てください。2分間、準備時間とします。」</p> <p>スクリーンに投影するスライド</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自己紹介 2分間</p> <p> <input type="checkbox"/>私の名前                      <input type="checkbox"/>行ったことのある秋田の観光地  <input type="checkbox"/>私の好きな食べ物            <input type="checkbox"/>修学旅行の思い出  <input type="checkbox"/>私の好きな○○○            <input type="checkbox"/>小・中学校の思い出  <input type="checkbox"/>得意なこと                      <input type="checkbox"/>総合的な探究の時間の思い出  <input type="checkbox"/>通学方法・通学時間        <input type="checkbox"/>国語の教科書の好きな作品 </p> </div>	エクササイズ	
	学習者	2分間、自己紹介の準備をする。		
	授業者	<p>「時間になりました。これから自己紹介をはじめます。二人の自己紹介が終わったら、『他己紹介』をします。隣の人から自己紹介で話してもらったことを、他の人に紹介してもらいますね。ですから、隣の人自己紹介をよく聞いてください。では、じゃんけんをして勝った人から自己紹介をはじめてください。では2分間でどうぞ。」</p>		
	学習者	2人一組になり2分間で自己紹介する。		
	授業者	<p>「隣の人に拍手。みなさん、だんだんと表情が明るくなりましたね。では、自己紹介する人を交代してください。では、2分間でどうぞ。」</p>		
	学習者	交代して2分間で自己紹介する。		
	授業者	<p>「次は、4人一組になって、隣の人を他己紹介します。時間は各自1分間でやりますので、全体で5分とります。他己紹介が終わったら、「以上です」と言い、「以上です」と言ったらみんなで拍手をしましょう。じゃんけんで勝った人から時計回りをはじめてください。」</p>		
	学習者	4人一組になり、それぞれ1分間で他己紹介する。		
	授業者	<p>「入学式の前、静まり返ったあの雰囲気が嘘みたいですね。教室が温かくなったような気がします。では、自己紹介・他己紹介の感想や気づきを何人かに聞いてみたいと思います。」</p>		リフレクション
	学習者	指名された生徒が発表する。		

【図1】他己紹介

### 3. 構成的グループエンカウンターの展開とねらい

以上が SGE の指導事例である。表の左端に示している通り、「インストラクション」「アクティビティ」「リフレクション」の過程で展開されている。それぞれの過程は【図2】のように整理される。



【図2】 SGE の展開

(研修資料をもとに稿者が作成)

SGE のねらいには「自己理解」「自己受容」「自己表現」「感受性の促進」「信頼体験」「他者理解」がある(【図3】)。「他己紹介」は、「自己理解」「自己受容」「自己表現」「信頼体験」「他者理解」をねらいとした活動である。

① 自己理解	自分について理解すること。
② 自己受容	欠点を含めた自分自身を(肯定的に)受け入れること。
③ 自己表現	自分の気持ちを的確に伝えること。
④ 感受性の促進	相手の気持ちを察知して行動すること。
⑤ 信頼体験	自他を信頼する体験をすること。
⑥ 他者理解	相手のことを受け入れ、そのよさを認めること。

【図3】 SGE のねらい

入学式が始まる前、新入生はじっと前を見て教室に座っている。気まずく、張り詰めた雰囲気、まだ寒さの残る4月の空気に運ばれてくる。入学式を終え、LHRでSGEを実践すると、張り裂けそうな緊張が和いだのように感じる。

國分(1996)は、「学級経営における教師の意図的な人間関係づくりが、教育に不可欠であり」、「構成的グループエンカウンター(SGE)は自己陶冶にいたる人間関係づくり、学級集団形態にきわめて有効な手法である」と述べている。SGEが「人間関係づくり」に寄与することを、実施後の生徒の様子から実感することができた。

緊張した面持ちの新入生を迎えるたび、早く、この教室が生徒にとって「安心できる場」になって欲しいと思う。7月に面談をしたある生徒は「入学式の日、初対面のクラスメイトと話せてよかったです」と口にしていた。SGEにはこの願いを実現する力があると信じている。本研修でSGEは単発ではなく、継続的に実施することが大切だと学んだ。今後も研究と修養に励み、HRのみならず授業や部活動など、機会を捉えてSGEを実践していきたい。

國分康孝(1996) 『エンカウンター 心とこころのふれあい』, 誠信書房, p.13

片野智治(2003) 「エンカウンターのキーワード1 用語解説」 國分康孝[監修]『エンカウンターで学級が変わる 高等学校編』図書文化社, p.6

# 定時制課程

1 重点目標・実施事項

重点目標	実施事項
1 校内研修の充実を図る。	1 年2回の授業参観週間、授業研究会、校内研修会を実施する。 教務部、校内LAN運用管理委員会との連携を密にする。 校務支援システムの利活用の情報を提供する。
2 授業改善に向けた情報の発信をする。	2 授業アンケートの内容を検討する。 ICT機器の利用の紹介を行う。

2 構成員及び業務分担

職員構成	◎齊藤 芳徳 ○山岸 幸希 夏井 雅子
------	---------------------

業務区分	業務内容	担当 (◎主担当)
総務	総括(企画・調整)	◎齊藤
職員研修	各種研修会、講習会申し込み	◎齊藤
	校内職員研修、研究授業実施計画	◎齊藤 山岸 夏井
	経験年次別研修	◎齊藤 山岸
研究紀要	研究紀要の編集	◎齊藤 夏井
資料整理	各種資料整理	◎齊藤 山岸 夏井

3 業務計画・研修計画

学期	月	業務等	研修等
1	4	業務分担、年間計画等の策定 総合教育センター研修講座申し込み 県高等学校教育研究会会員登録	授業参観旬間①
	5	授業参観の感想等集約	
	6	授業アンケートの作成	指導主事訪問(1回目)
	7	授業アンケートの集計	生徒による授業アンケート①
2	8		
	9		
	10	授業アンケートの作成	指導主事訪問(2回目)、研究授業
	11	授業参観の感想等集約	授業参観旬間②
	12	研究紀要の作成 授業アンケートの集計	生徒による授業アンケート②
3	1	研究紀要の作成	
	2	研究紀要の作成	
	3		

## 地理歴史科（地理総合） 学習指導案

授 業 者：保坂 真

教 科 書：わたしたちの地理総合（二宮書店）

実 施 日 時：10月17日（木）2校時

場 所：教室3

対象クラス：3年生

### 1 単元名 第2章 生活文化の多様性と国際理解 2節 産業の発展と生活文化

#### 2 単元の目標

- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地形、気候などの自然環境や、歴史的背景や経済発展などの社会環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、それらの地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「地理的環境を踏まえた生活文化の理解と尊重」などの主題を設定し、「多様な生活文化に配慮して、世界の人々が共存するためにはどのような工夫が必要なのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

#### 3 指導観

単元を通じて、世界の人々の特色ある生活文化が地理的環境の変化によって変化することを理解させたい。そのため、まずは資料を基に対象地域の地理的環境の変化を読み取れるようにしたい。そして、読み取った内容を基に、生活文化の変化を考察できるように、段階を踏んだ授業展開にしていきたい。

#### 4 生徒観

3年生は3修制の生徒5名と4修制の生徒2名からなるクラスである。普段の授業や、就職試験に向けた面接練習などを通して自分の考えを的確に表現する力が身に付いてきたように感じる。しかし、基礎的知識の定着には課題がある。また、学校の授業以外での学習習慣がないため、知識・技能の定着にも時間がかかる。これらのことから、前時までの復習を確実にいき、既習の内容を生かした授業展開を意識したい。また、生徒からの発言や、授業の核となる部分は強調して確認し、学習内容の定着度を高めたい。

## 5 単元計画（全7時間）

- 1 農業の地域性
- 2 農業と生活文化
- 3 工業の地域性
- 4 経済成長による生活変化①
- 5 経済成長による生活の変化②
- 6 工業化による生活の変化①（本時）
- 7 工業化による生活の変化②

## 6 単元の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地形、気候などの自然環境や、歴史的背景や経済発展などの社会環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、それらの地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</li> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「地理的環境を踏まえた生活文化の理解と尊重」などの主題を基に、「多様な生活文化に配慮して、世界の人々が共存するためにはどのような工夫が必要なのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

## 7 本時の計画

### (1) 本時の目標

東南アジアの工業がどのように進展してきたのか考察し、表現することができる。

### (2) 展開

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価
導入 7分	1 前時までの復習	一斉 (5分)	・ 中国で労働者の賃金が上昇し、東南アジアに外国企業が進出していることを確認する。	
	2 本時の目標を確認する。	一斉 (2分)		
本時の目標: 東南アジアの工業がどのように進展してきたのか考察し、表現することができる。				
展開 22分	<p>3 《エキスパート活動》</p> <p>・ 各班に配られた資料A（資料B）について、各自で読み取る。その後、エキスパート班で資料から読み取った内容について話し合いながら精査する。</p> <p>①資料A: かつての東南アジアの工業 →かつては植民地時代のモノカルチャー経済の影響で、輸出品では一次産品の割合が高かったことを読み取る。また、この産業構造の脱却に向け、輸入代替型工業を進めたが成長しなかったことを読み取る。</p> <p>②資料B: 東南アジアの工業の変化</p>	個、協働 (12分)	<p>・ 一人ひとりが資料のエキスパートとして、説明することができるように確認する。</p> <p>・ 机間巡視により生徒の考えを確認し、後のジグソー活動の際の支援に活かす。</p>	

	<p>→輸出指向型の工業により、成長したことを読み取る。また、輸出加工区などの具体的な取組についても読み取る。</p> <p>4 《ジグソー活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー班に分かれ、それぞれの資料を基に説明する。(説明を聞く)</li> <li>・2つの説明を基に、東南アジアの工業化の進展についてまとめる。</li> </ul>	<p>協働 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー班で考えを1つにまとめるように指示する。</li> <li>・自分の考えを明確に伝えられていない生徒がいる場合、補足をするなど支援を行う。</li> </ul>	
<p>まとめ 16分</p>	<p>5 クロストーク学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー班ごとに、東南アジアの工業がどのように発展してきたか、まとめたことを発表し共有する。</li> <li>・各班のまとめの共通点、相違点を確認し、東南アジアの工業化の進展について整理する。</li> </ul> <p>6 ジグソー活動、クロストーク学習を踏まえ、自分の言葉で東南アジアの工業化の進展についてまとめる。</p> <p>7 振り返りシートに振り返りを記入する。</p>	<p>個 (5分)</p> <p>一斉 (4分)</p> <p>個 (5分)</p> <p>個 (2分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー班でまとめた考えをホワイトボードに記入するように指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアの工業がどのように進展してきたのか考察し、表現している。</li> </ul> <p><b>【思・判・表】</b></p>



## 8 授業研究会における協議の視点

- ・何について学ぶのか、何ができるようになるのか明示された「本時の目標」により、生徒がその時間全体の取り組みをイメージできる。
- ・1時間を通しての流れがわかる工夫により、生徒が、そのときどの段階にあるかを把握しながら、授業に臨むことができる。
- ・振り返りの活動を通し、生徒が、その時間に何を学び、何が身についたか認識できる。

## 地歴公民科 校内授業研究会の記録

### 1 授業担当者からの説明

まとめの学習活動に入れずに授業が終わってしまった。生徒間での学力差があるため、資料の読み取りの難易度設定に迷ったところがあった。そのため、資料読み取りが不十分で、エキスパート活動での軌道修正等に時間がかかったため、まとめの学習活動まで到達しなかった。今回の授業は途中で終わってしまったので、次時でも引き続き同じ学習内容を扱い、2時間分の授業のまとめをしたいと考えている。

一方で、生徒が時間全体の取り組みをイメージし、段階を把握しながら授業を展開することができた。本時の目標や学習活動を継続して提示したことの効果があったと考えている。

### 2 グループでの協議、報告

#### (1) 協議方法

A、Bの2班に分かれ、付箋紙と模造紙を利用して協議を行う。青の付箋紙には成果等プラス面を記入し、赤の付箋紙には課題・改善点等のマイナス面を記入する。青、赤の付箋紙は、視点に則したことがらについて参観しながら記入する。また、黄色の付箋紙には協議のまとめや提言等を記入する。

#### (2) グループからの報告

##### ・A班

導入から本時の内容への流れがスムーズでしっかりとした授業準備を見て取れた。また授業中、電子黒板を使いこなしており、普段の授業の一端が見られた。生徒の授業環境の面では、使用するプリントの関係等から、作業をする上で机上が狭かったように感じる。また、教師が手元を見て話すことがあったので、生徒の方を見て話すなど、授業の展開以外の面にも気を配ることができればよりよい授業になると思う。

##### ・B班

本時の目標がしっかりと提示されていてよかった。また、黒板に授業の流れを示し、電子黒板でさらに細分化したものを示していたので、生徒が学力に関係なく学習活動に取り組んでいた。一方、生徒の役割分担や指示を分かりやすく細かく示したため、説明に時間がかかり、最終的な時間の不足に繋がってしまった。今回の1時間で授業のまとめを行うことはできなかったが、できたところまでのまとめや振り返りができればよかったと思う。

### (3) 指導助言内容

導入部分は非常にスムーズであった。前時に扱った中国の経済と関連付けて、本時の目標を提示することで、生徒が事象を比較する視点を持ちながら授業に臨めるようになっていた。

展開部分のエキスパート活動では「なぜ、この活動」をするのか生徒が理解する必要がある。活動を行うことで、どのような意義があるのかということを経験を掛けて説明すべきである。資料の読み取りでは、生徒同士で修正を入れる等、協働的な学びになっていた。読み取った内容を生徒が自分の言葉で整理していて、生徒が今回の学習内容を理解しようとする姿勢が感じられた。資料の中で、生徒が考える問いが設定されていたが、この問いで見出す特徴の個数を示すなど、より踏み込んだ内容にすることで生徒が考えやすくなったのではないかと思う。

ジグソー活動では、資料から読み取った内容を説明する生徒を補助する生徒がいるのがよかった。生徒自身が考え、的確に伝えられるように自分の言葉で説明していた。生徒の視線が手元の資料に向きがちだったので、資料の図を全体に示しながら説明する方法でもよかったと思う。

授業全体を通して、本時の目標が明確に示されていてよかった。学習の流れについては、黒板に示されていたが、学習の現在地点を示すと更によいと感じた。話し合い活動での役割分担は明確に示されていた。役割分担をプリントに記載するなど、見える形で示すことで、より授業がスムーズに進められる。

今回の授業では、時間が足りなかったが、生徒の振り返りシートを見たところ、授業回数を重ねるごとに、充実した内容を書けるようになっているのがよかった。年間の中で振り返りシートの形式も変え、より高度な振り返りができるように生徒に負荷をかけていてもよいかと思う。

## 令和6年度授業改善重点事項について

定時制課程研修部

定時制課程では令和6年度の授業改善重点事項を次のように定め、取り組んだ。

### 1 課題

「主体的な学びを通して、社会で求められる資質・能力を育成する授業の工夫」  
— その時間の課題と目標を理解し、見通しをもって主体的に学ぶ態度を養う —

### 2 課題の設定理由（生徒の実態）

本校（定時制課程）での学びについて、12月実施の学校評価アンケートでは「授業はわかりやすく、楽しく学べる」、「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」などのアンケート項目に、ほぼ半数の生徒が「よくあてはまる」と回答し、「ややあてはまる」を合わせるとほとんどの生徒が授業を前向きに捉えている。その一方で、その時間を通して、またその流れの時々、何を学んでいるのか、何を身に付けようとしているのかがわからないまま授業に臨み、何がわかり、何がまだわからないのか、自身の達成度を測れずにいる生徒の存在も想定される。

生徒が、取り組むべき課題と到達すべき目標を理解し、見通しをもちながら授業に臨むことで、主体的、意欲的に取り組み、自身の理解度を客観的に意識できるようになると考える。

### 3 目指す生徒の姿（具体的な取り組み）

- ① 何について学ぶのか、何ができるようになるのかを明示された「本時の目標」により、生徒がその時間全体の取り組みをイメージできる。
- ② 1時間を通しての流れがわかる工夫により、生徒が、そのときどの段階にあるかを把握しながら、授業に臨むことができる。
- ③ 振り返りの活動を通し、生徒が、その時間に何を学び、何が身に付いたかを認識できる。

### 4 実践に際しての留意点

目標や授業の流れは、説明を一度するだけでなく、生徒が1時間を通して確認できるように工夫する。

## 5 各教員の取り組み

生徒に対して実施した授業アンケート1回目の結果を踏まえ、授業担当者が実践課題として「各自の現状（課題）」と「改善のための取り組み」を明確化し、授業改善に取り組んだ。

- 7月 「各自の現状（課題）」、「改善のための取り組み」の報告・提出
- 10月 「進捗状況」の報告・提出  
研究授業及び授業研究会の実施（指導主事学校訪問《2回目》）
- 1月 「達成状況」の報告・提出

## 6 研修部の取り組み

重点事項の具体的な取り組みのうち、「本時の目標」の明示（3の①）についてはほとんどの授業において何らかの形で実施されている。示された目標を1時間の授業を通してより多くの生徒に意識させ、目標の達成に近づけさせるために、「1時間を通しての流れがわかる工夫」（3の②）と理解を深めるための「振り返りの活動」（3の③）が今年度の授業改善の柱となるが、これらについては担当する教員によって取り組みに大きな差があると考えられた。そこで、以前からこれらに取り組んでいる教員に資料等の提供をお願いするなどし、実践例について全体に紹介した。

## 7 成果

### [取り組み①]

今年度の課題を設定する以前から「本時の目標」の明示についてはほとんどの授業で実践されていたが、1時間を通して目標を明示することや、その効果的な提示方法の工夫などの取り組みが行われた。授業担当者の報告から、②の「流れ」の中で今どのあたりに取り組んでいるのかを生徒に意識させることや、③の「振り返り」と関連付けを図ることで、①との相乗効果を得られたことがうかがえる。

### [取り組み②]

授業の流れや指示を明確にしたことで、生徒対象の2回目の授業アンケートでは「内容がわかりやすい」、「内容がまとまっている」などの回答が授業担当者に寄せられた。担当者からは、「本時の目標」と振り返りのセットで展開を考えることで授業の軸ができた、1時間の中で内容を区切りごとに確認することで知識の定着に効果があった、などの報告があった。

### [取り組み③]

各時間ごとに振り返りの活動を設けることで、学習課題や授業の流れを意識しながら授業に取り組もうとする姿勢が高まった。振り返りシートによって、生徒は自分の達成状況を把握できる。授業での学びがその後の活動に生きることを実感し、授業への前向きな姿勢につながっている事例もあった。また、教師は生徒の理解が不十分なところに気付けるようになった。

## 授業アンケートと分析

研修部 山岸 幸希

### 1 目的

- (1) 魅力があり、信頼される学校を目指すために、生徒による授業アンケートを通じて指導方法の改善を図る。
- (2) これまでの授業における生徒の意見や困難を感じている点を理解し、今後の授業改善に活用する。
- (3) これまでの授業への取り組みについて、生徒自身が自己評価をする機会とする。

### 2 実施内容

- (1) 対象 全校生徒  
0校時を含む全ての科目
- (2) 方法 ChromeBookによるフォームへの回答
- (3) 期間 第一回 令和6年7月11日(木)～18日(木)  
第二回 令和6年12月3日(火)～11日(水)
- (4) 集計処理 研修部でアンケートの結果を集約し資料を作成

※ 1 下記の表はアンケートの回答を

1:全くあてはまらない, 2:あまりあてはまらない, 3:ややあてはまる, 4:よくあてはまる と扱い、質問ごとに全科目の平均をとったものと、各回答を選択した割合である。

2 質問の趣旨は生徒の学習への取り組みについてと、教員の授業についての2種類があるので平均値もそれに合わせて2種類に分けている。

授業アンケートの比較(各学年)
-----------------

### 令和6年度授業アンケート集計結果(1年生)

期間	7月(回答数6人/科目数10)					12月(回答数5人/科目数10)				
	平均	回答の割合 [%]				平均	回答の割合 [%]			
		4	3	2	1		4	3	2	1
1. 授業に対して意欲的に取り組んでいますか？	3.5	54.1	42.6	3.3	0.0	3.6	56.9	43.1	0.0	0.0
2. 意見交換、学び合い、発表などに積極的に参加していますか？	3.3	42.6	45.9	11.5	0.0	3.3	43.1	47.1	9.8	0.0
3. 定期考査の準備や課題の提出を心がけていますか？	3.6	55.7	32.8	1.6	0.0	3.5	49.0	45.1	2.0	0.0
平均	3.5	50.8	40.4	5.5	0.0	3.5	49.7	45.1	3.9	0.0
1. 本時の目標が明確に示されていますか？	3.7	70.5	24.6	4.9	0.0	3.7	70.6	29.4	0.0	0.0
2. 1時間の授業の中でその時に何を学んでいるか分かる構成になっていますか？	3.7	71.7	25	3.3	0.0	3.8	76.5	23.5	0.0	0.0
3. 学習内容を振り返り、その時に何を学んだかわかる授業になっていますか？	3.8	73.8	24.6	1.6	0.0	3.7	72.5	25.5	2.0	0.0
平均	3.7	72.0	24.7	3.3	0.0	3.7	73.2	26.1	0.7	0.0

自由記述の項目(7月から12月にかけて工夫や改善された点について)

- ・振り返りができた
- ・授業のわかりやすさ
- ・授業全体がまとまっている

#### 結果を受けて

7月から12月での変化として母数が少ないこともあり、明確に変わったと言える部分はないが、自由記述の項目で一部の授業について以前よりまとまっていると回答があった。また、学び合いへの参加の項目が3.3と他の項目よりも低いので3.7、3.8になるようにしたい。

## 令和6年度授業アンケート集計結果(2年生)

期間	7月(回答人数7/科目数14)					12月(回答人数7/科目数14)				
質問	平均	回答の割合 [%]				平均	回答の割合 [%]			
		4	3	2	1		4	3	2	1
1. 授業に対して意欲的に取り組んでいますか?	3.9	84.9	15.1	0.0	0.0	3.9	86.2	13.8	0.0	0.0
2. 意見交換、学び合い、発表などに積極的に参加していますか?	3.7	70.9	24.4	4.7	0.0	3.7	70.1	23.0	6.9	0.0
3. 定期考査の準備や課題の提出を心がけていますか?	4.0	83.7	4.7	11.6	0.0	3.9	77.0	8	14.9	0.0
平均	3.9	79.8	14.7	5.4	0.0	3.8	77.8	14.9	7.3	0.0
1. 本時の目標が明確に示されていますか?	3.8	83.7	14.0	2.3	0.0	3.8	89.7	6.9	3.4	0.0
2. 1時間の授業の中でその時に何を学んでいるか分かる構成になっていますか?	3.7	76.7	23.3	0.0	0.0	3.7	78.2	19.5	2.3	0.0
3. 学習内容を振り返り、その時に何を学んだかわかる授業になっていますか?	3.7	74.4	24.4	1.2	0.0	3.7	75.9	17.2	6.9	0.0
平均	3.7	78.3	20.4	1.2	0.0	3.7	81.3	14.5	4.2	0.0

自由記述の項目(7月から12月にかけて工夫や改善された点について)

- ・ 振り返りができるようになった
- ・ 授業のはじめに今日の流れを黒板に書いてくれる
- ・ 授業のテンポが良くなった

### 結果を受けて

7月から12月にかけて変化があったと言える数字ではなかった。自由記述の項目で振り返りの時間ができたことや授業の流れがわかるようになったなど、一部の授業について改善された点の回答を得られた。



## 令和6年度授業アンケート集計結果(3年生)

期間	7月(回答人数7/科目数12)					12月(回答人数7/科目数12)				
質問	平均	回答の割合 [%]				平均	回答の割合 [%]			
		4	3	2	1		4	3	2	1
1. 授業に対して意欲的に取り組んでいますか?	3.7	75.9	18.9	0.0	5.4	3.8	80.8	16.4	1.4	1.4
2. 意見交換、学び合い、発表などに積極的に参加していますか?	3.5	71.6	18.9	4.7	9.5	3.6	76.7	15.1	2.7	5.5
3. 定期考査の準備や課題の提出を心がけていますか?	3.7	71.6	21.6	1.4	0.0	3.8	80.8	13.7	14.9	1.4
平均	3.6	73.0	19.8	2.0	5.0	3.7	79.4	15.1	6.3	2.8
1. 本時の目標が明確に示されていますか?	3.9	91.9	6.8	1.4	0.0	3.7	78.1	20.5	0.0	1.4
2. 1時間の授業の中でその時に何を学んでいるか分かる構成になっていますか?	3.9	93.2	4.1	4.1	1.4	3.8	80.8	17.8	0.0	1.4
3. 学習内容を振り返り、その時に何を学んだかわかる授業になっていますか?	3.9	90.5	8.1	1.4	0.0	3.7	78.1	19.2	1.4	1.4
平均	3.9	91.9	6.3	2.3	0.5	3.7	79.0	19.2	0.5	1.4

### 結果を受けて

7月から12月にかけて大きい変化はない。授業に関する項目の数値が全て下がっている。授業に関する改善点についても以前より悪化したなどの回答もなく、前年のアンケートでも同様の現象が起きている。より踏み込んだ質問などを用意して、分析する必要がある。

## 令和6年度授業アンケート集計結果(4年生)

期間	7月(回答人数 5/科目数 9)					12月(回答人数 5/科目数 10)				
質問	平均	回答の割合 [%]				平均	回答の割合 [%]			
		4	3	2	1		4	3	2	1
1. 授業に対して意欲的に取り組んでいますか？	3.9	87.2	12.8	0.0	0.0	3.9	88.0	12.0	0.0	0.0
2. 意見交換、学び合い、発表などに積極的に参加していますか？	3.8	80.9	19.1	0.0	0.0	3.9	86.0	14.0	0.0	0.0
3. 定期考査の準備や課題の提出を心がけていますか？	4.0	83.0	4.3	0.0	0.0	3.9	84.0	6.0	0.0	0.0
平均	3.9	83.7	12.1	0.0	0.0	3.9	86.0	10.7	0.0	0.0
1. 本時の目標が明確に示されていますか？	3.6	70.2	25.5	4.3	0.0	3.7	76.0	18.0	4.0	2.0
2. 1時間の授業の中でその時に何を学んでいるか分かる構成になっていますか？	3.7	76.6	21.3	2.1	0.0	3.7	78.0	14.0	6.0	2.0
3. 学習内容を振り返り、その時に何を学んだかわかる授業になっていますか？	3.6	72.3	21.3	4.3	2.1	3.8	78.0	20.0	2.0	0.0
平均	3.6	73.0	22.7	3.6	0.7	3.7	77.3	17.3	4.0	1.3

自由記述の項目(授業の改善点について)

- ・課題を進める順番とかを別の紙にまとめてくれると助かる
- ・プリントのかがりが小さい
- ・ノートを見たならサインしてほしい

### 結果を受けて

7月から12月にかけての変化は大きくはないが、授業に関して振り返りについての項目の数値が0.2上がっていた。また、他の学年と比較して自由記述の項目で授業の改善点への回答が盛んであった。

令和6年度授業アンケート集計結果(全学年)

期間	7月(回答人数 25/科目数 45)					12月(回答人数 24/科目数 46)				
質問	平均	回答の割合 [%]				平均	回答の割合 [%]			
		4	3	2	1		4	3	2	1
1. 授業に対して意欲的に取り組んでいますか？	3.7	75.5	22.4	0.8	1.4	3.8	78	21.3	0.4	0.4
2. 意見交換、学び合い、発表などに積極的に参加していますか？	3.6	66.5	27.1	5.2	2.4	3.6	69.0	24.8	4.9	1.4
3. 定期考査の準備や課題の提出を心がけていますか？	3.8	73.5	15.9	3.7	0.0	3.8	72.7	18.2	8.0	0.4
平均	3.7	71.8	21.8	3.2	1.3	3.7	73.2	21.5	4.4	0.7
1. 本時の目標が明確に示されていますか？	3.8	79.1	17.7	3.2	0.0	3.8	78.6	18.7	1.9	0.9
2. 1時間の授業の中でその時に何を学んでいるか分かる構成になっていますか？	3.8	79.6	18.4	2.4	0.4	3.7	78.4	18.7	2.1	0.9
3. 学習内容を振り返り、その時に何を学んだかわかる授業になっていますか？	3.8	77.8	19.6	2.1	0.5	3.7	76.1	20.5	3.1	0.4
平均	3.8	78.8	18.5	2.6	0.3	3.7	77.7	19.3	2.4	0.7

**結果を受けて**

7月の時点で全ての項目が3.5以上で、元々高いこともあり7月から12月にかけて大きく変化したと言える数字はなかった。しかし、自由記述の項目において、その授業の良い点について7月に記述のなかった生徒から12月には回答があったり、一部授業について改善された点について回答があったりと、授業改善の成果が見られた。

## 令和6年度縦割り活動について

特別活動部 保坂 真

### 目的

「防災」「食」の2つのテーマのもと、異年齢集団での協働的な活動を取り入れることで、実生活に役立つ技能や、相手の気持ちを察する能力、協調性、主体性といったソーシャルスキルの向上を目的として実施した。

### 昨年度からの改善点

- ・活動のテーマを「防災」「食」の2点に決めることで、学びの連続性を高めた。また、来年度は違うテーマを設定することで、生徒が卒業までに様々な実践的スキルが身に付くようにした。
- ・担当者が作成した要項と振り返りシートを事前に職員間で回覧することで、より精査された効果の高い活動が実施できるようにした。
- ・活動内のコミュニケーションが必要な場面を取り上げ、教師がロールプレイを生徒に提示することで、生徒同士の積極的な協働を促した。

**実施内容** 全8回 担当者が協働的な活動になるよう課題を設定し展開した。

1回目	世界一/日本一/秋田一〇〇な自己紹介
2回目	食を考えよう、野菜を作ろう
3回目	ロープの結び方をマスターしよう
4回目	「ちょい足しメニュー」を考えよう
5回目	自分たちの「非常持ち出し袋」を考えよう
6回目	ミニパフェ作り
7回目	徒手搬送方法
8回目	地震に備えた部屋作りをしよう

## 各回の活動の様子と生徒の感想

### 1回目 世界一/日本一/秋田一〇〇な自己紹介



#### ○生徒の感想

- ・相手の趣味や特技を知って、それについて質問することは日常でもよくあるので、練習になった。
- ・年上の人に自己紹介をするのは緊張した。相手の長所を聞いて、自分にはない良さがあり、凄いと思った。
- ・緊張したが、相手のことを知ることができた。話してみないと分からないこともあると感じた。

## 2回目 食を考えよう、野菜を作ろう



### ○生徒の感想

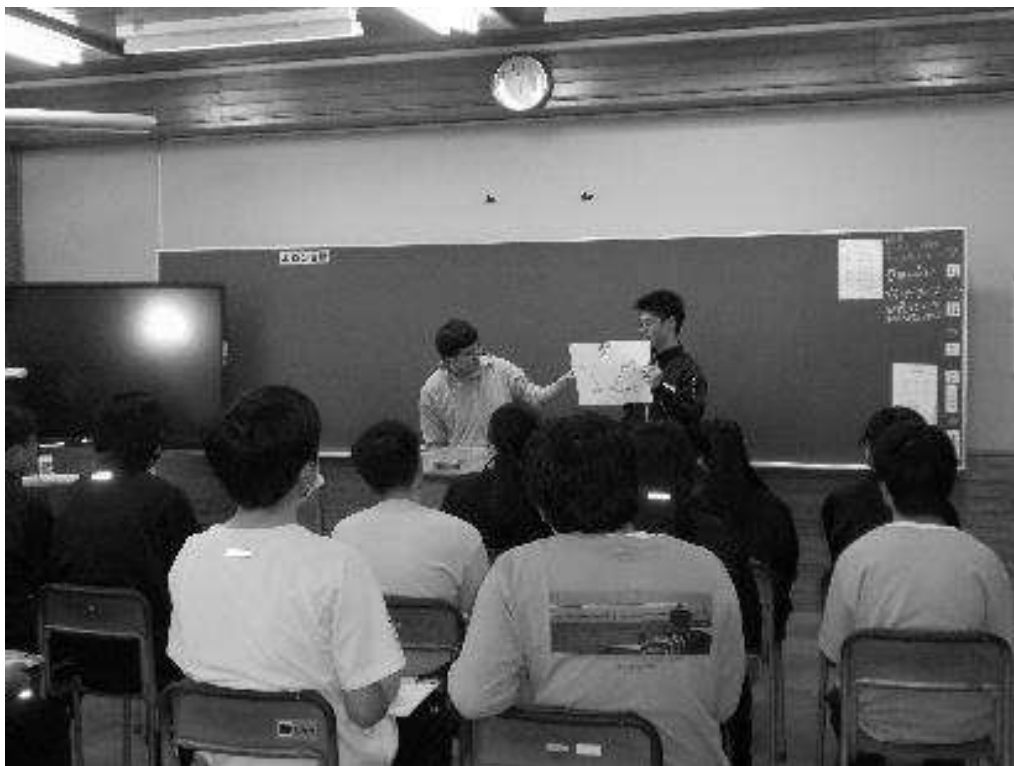
- ・野菜を育てることは自宅でもできるので、挑戦してみたい。
- ・昨年の活動では、その場の流れに合わせて活動していたが、今回は、積極的に活動に参加することができた。
- ・班員と協力して野菜を植えることができた。これからの水やりも頑張りたい。

## 3回目 ロープの結び方をマスターしよう

### ○生徒の感想

- ・普段の生活でロープを結ぶ機会はあまりないので、良い経験になった。
- ・巻き結びは出来たが、いぼ結びは出来なかったので、自宅で再度挑戦したい。
- ・野菜棚を作る際のロープの結び方を覚えることができた。ロープの結び方はこれからの生活にも役立つと思う。

#### 4回目 「ちょい足しメニュー」を考えよう



##### ○生徒の感想

- ・タンパク質を補給することを考えると、卵と鶏肉が食事に必要だと思った。
- ・ねぎやきゅうりを使ったメニューは考えやすいので、この2つの食材は常備しておきたい。
- ・普段、朝食をとらないが、栄養バランスを考えた三食とりたいと思った。

## 5 回目 自分たちの「非常持ち出し袋」を考えよう



### ○生徒の感想

- ・非常持ち出し袋を用意するだけではなく、定期的に中身を点検し、いざというときに使えるようにしたい。
- ・災害の数は年々増えていて、大きな規模のものも多いので、災害対策をしたい。
- ・班員の意見を聞いて、自分では思いつかなかった災害時に必要なものを知ることができた。



## 6 回目 ミニパフェ作り



### ○生徒の感想

- ・班員と協力してパフェを作るのはとても楽しく、みんな笑顔で行っていた。
- ・班員 9 人で食材を分けることは難しかったが、上手く分けることができた。
- ・班員と話し合いながら、良い見た目のパフェを作ることができた。班員はそれぞれの役割を果たしていたので、協力できたと思う。

## 7回目 徒手搬送方法



### ○生徒の感想

- ・徒手搬送によって救える命があるので、搬送の仕方を覚えようと思った。
- ・1人でも安全な場所に搬送できることが分かったので、いざというときに実践したい。
- ・どの搬送方法も安定していて安心できた。自分が搬送する時のために、日頃から体力を付けたいと思った。

## 8 回目 地震に備えた部屋作りをしよう



### ○生徒の感想

- ・地震が起きたときに向けて、自分の部屋は対策ができていないか確認しようと思った。また、学校でも危険な場所がないか確認したいと思った。
- ・自分の部屋の棚の位置を変えるべきだと感じた。また、窓が多い部屋なので、窓ガラスが割れない対策もしたい。
- ・地震が原因で、自分の部屋の物が崩れ落ちた経験がないので、今回の活動で地震に備えることの大切さを確認できた。

### 1年を通しての成果

教師が「防災」「食」のテーマのもと、効果的な活動を実施したことで、年間を通して生徒の「防災」「食」に関するスキルが向上した。また、全ての活動で教師がロールプレイを実施したことで、生徒同士が協働するイメージを持つことが可能となり、普段関わることがない人間関係の集団の中で、相手の気持ちを察する能力や協調性を向上させることができた。さらに、これらのスキルの向上が生徒の活動への積極的な参加へとつながり、主体性の向上にも効果があった。

## コグニティブトレーニングについて

養護教諭 佐々木 奈緒子

### 1 はじめに

本校の定時制課程では、不器用さの改善や基礎学力の土台作り、対人スキルの向上を目的（※）として、全校でコグニティブトレーニング（以下、コグトレ）を実施している。コグトレの導入は、令和元年頃に数名の教員が学習に向かう準備として授業に取り入れたことがきっかけで、これを契機に令和3年度から全校で実施することとなった。

年間の実施回数や時間設定は年度ごとに変更されているが、今年度は、間隔を空けずに繰り返し実施することが効果的であると考え、年2回の「コグトレウィーク」として実施した。

※参考：一般社団法人日本 CO-TR 学会 HP

### 2 コグトレウィークの実施方法

	1回目（6月）	2回目（11月）
日数	4日間	3日間
時間	SHR後の20分間（1～4校時を5分ずつ短縮）	
内容	1～3日目（作業、認知）	1～2日目（作業、認知）
	・ 図形や文字の回転、間違い探し、図形の描写、迷路等の問題を解く （同じパターンで組み合わせた問題とし、正答数の変化を確認） ・ 生徒がその場で丸付けをし、振り返りシートに記入	
	4日目（ソーシャルスキル）	3日目（ソーシャルスキル）
・ ウォーミングアップ：時間内に文字や数字の配置を覚え、用紙に記入 ・ 対人マナーに関する問題：失敗例と成功例の受け答え方、表情、話すスピード等を個々に考え、クラスで意見を共有 ・ 振り返りシートに記入		

### 3 問題の選定について

令和5年度は特別活動部が担当したが、令和6年度は特別活動部と支援委員会が連携して行った。コグトレウィーク1回目と2回目では、問題のパターンを少し変更しているが、前半（1回目）の4日間、後半（2回目）の3日間では、同じ傾向の問題を続けて出題している。また、取り組み方と、選定した問題を事前に職員に回覧した上で実施した。

#### 4 正答数の変化

問題プリント1ページに、1～3個の問題が組み合わせられており、1ページ全て正解した場合に、1点として集計した。

	コグトレウィーク1回目 (9点満点)			コグトレウィーク2回目 (10点満点)	
	1日目	2日目	3日目	1日目	2日目
平均点	4.7	6.5	8.1	3.8	6.7

1日目に0点であっても、続けて取り組むことにより点数が伸び、3日目に満点に近い点数をとった生徒がいた。また、同じクラスにおいて、成績上位者より高点数をとった生徒もあり、振り返りシートでは「次は〇〇を頑張りたい」「面白かった」等の感想がみられた。前向きに取り組む、ちょっとした達成感が得られた様子が伺えた。

#### 5 成果と課題

〈成果〉

- ・熟考する問題よりも、瞬発力やひらめきで解くことができる問題を設定したことで、ほとんどの生徒が、途中で終わることなく最後まで問題を解くことができた。
- ・連続した日を設定したことで問題の傾向に慣れ、点数が上がって行く体験ができた生徒が多くいた。
- ・ソーシャルスキルの問題を取り入れ、短時間ではあるがクラスで共有する時間を設けたことで、話す際の表情等を意識するきっかけができた。

〈課題〉

- ・年間で連続した日に設定できる期間が限られているため、早い時期に計画していく必要がある。
- ・コグトレ導入の目的を、年間計画作成の段階で再確認し、問題の選定や実施の仕方を生徒の実態に合わせていく必要がある。
- ・様々な生徒の実態に対応できるよう、問題のレベルを2種類にする等の手立てがあると良い。

## 令和6年度高等学校講師等研修講座Aを受講して

臨時講師 山岸幸希

### 1 はじめに

今年度から、秋田県の教員として勤務することになった。学生時とは異なる心構えや資質・能力が必要となるが、それらを学ぶ機会はこれまでなかった。今回の研修講座では対人関係や授業づくりにおける課題の発見ができ、それらの改善に繋げられる貴重な機会になった。

### 2 研修講座の日程、テーマ

- (1) 期日 4月26日(金)
  - (2) 会場 秋田県総合教育センター
  - (3) 日程
- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| オリエンテーション          | 10:00～10:15 |
| 教育公務員の服務           | 10:15～11:45 |
| 学校組織の一員として－組織人の基本－ | 12:45～13:45 |
| 授業づくりについて          | 14:00～15:00 |
| 人間関係づくりについて        | 15:10～16:05 |
| 研修の振り返り            | 16:05～16:15 |

### 3 講義・演習内容

#### (1) 教育公務員の服務

ここでは、地方公務員及び教員が遵守しなければならない法律や、生徒へのセクハラ、生徒に対する不適切な発言・体罰、私的なSNSでのやりとり、飲酒運転での事故、不適切な会計処理など具体的な懲戒処分の事例について学んだ。また、起こりうる状況として飲酒運転及び事故は冬場の雪道、飲酒した翌朝があげられ、セクハラについては部活動でそのような意図がなくても誤解されることがあるため事前に説明しておくことが重要であると学んだ。

そして、他人事で捉えないようにと、ペアワークでそれらの不祥事について自分が起こしうる状況を想定して防止策を考えた。私は、特別活動の会計を担当しており、入力ミスなどで不適切な会計を作成してしまう場面を想定し、私一人でなく、同じ特別活動部の教員と二重の確認が必要と考えた。

## (2) 学校組織の一員として

ここでは、組織人として欠かせない素養を学んだ。学校組織を円滑に運営する、学校組織マネジメントについて学んだ。授業やそれ以外の仕事における PDCA サイクルの重要性を理解した。また、教職員としての職場での会話について演習を行った。他の先生に新しく任された仕事のやり方を教わるときの頼み方や、自分が依頼されている仕事があるときにまた別の依頼がきたときの対応の仕方など、複数の具体的なやりとりをペアで役割を変えて行い、適切な言葉遣いや円滑なコミュニケーションを学んだ。

## (3) 授業づくりについて

ここでは、授業の形の基礎を学ぶとともに、授業の内容だけでなく話し方や、表情など、授業中に教員が取るべき態度について学んだ。化学の教科書を用いて、共有結合の結晶の性質を理解する、という明確な目標(ねらい)を達成するための学習活動として、教科書のどこを取り上げるのかという授業の基本形から授業づくりについて実践的な考え方を学ぶことができた。また、授業中の教員の態度や表情については、メラビアンの法則とあって、言語情報が7%、聴覚情報が38%、視覚情報が55%、というコミュニケーションにおいて相手に影響を与える割合を示す法則を学んだ。言語よりも聴覚・視覚から得る情報の方が相手に強い影響を与えることから、話し方、表情などの非言語コミュニケーションが大切ということを理解した。そして、前述と同じく化学を題材にして、「生徒が、構造が物体の性質に関係していることを見いだして理解すること」をねらいとしたら、どのような発問がよいか、ということについてグループワークで考える演習を行った。同じ元素から構築されているのにそれぞれが異なる性質なのはなぜなのか、といった理解を助ける発問を意識するとよいと学んだ。

#### (4) 人間関係づくりについて

ここでは、職務上関わる相手に対してポジションを変えて話すことの重要性や生徒との信頼関係の築き方を学んだ。演習では構成的グループエンカウンターをおこなった。相手と話すときのポジションとして、生徒、同僚、保護者など様々な人と関わるなかで、「相手が伝えようとしていることの意をくみ取る」姿勢と「教師が伝えようとしていることの意を相手がくみ取る」の2つを学んだ。前者がワンダウンポジションで、後者がワンアップポジションである。この2つのポジションの変化を柔軟に行えないと社会性が未熟として批判を受けることもあり、そのポジションの変化の重要性を理解した。生徒との信頼関係については、①視線、②表情、③ジェスチャー、④声の大きさと質、⑤言葉遣い、⑥服装・身だしなみの6つに分けた非言語スキルが重要であることを学んだ。また、視線は目と目を合わせて話すことで伝わる力強さがあることや、逆に強すぎる視線を嫌う人がいること、表情については発する言葉に適した表情をすることが重要であることなど、それぞれのスキルの具体的で適切な使い方を学んだ。人間関係づくりの演習として、人とのふれあいや自他発見を目標とした、構成的グループエンカウンターを行った。紙に、お題とお題に沿った回答が5つあり、合図に合わせて5つの中で自分に近い回答を選ぶという内容だった。選んだ回答についてさらに詳しく話し合い、初対面ではあったがお互いのことを知ることができた。

#### 4 研修の成果

今回の講義・演習を通して、教育公務員及び、組織に属する人間としての在り方を見直す機会となった。また、授業作りや人間関係の作り方についても知識として初めて知ることや新たな視点を得る貴重な機会となった。

特に、授業作りでの講義・演習では自分の専門ではない科目を扱ったので、専門ではないからこそ授業の組み立てや生徒が目標を達成するための手立てについて、ゼロから考えることができた。また、それを考える際、グループで意見を共有したため、自分とは異なる考え方を知ることや、他の人の賛同で自分の考え方に自信を持つことができた。

そして、働き始めて1年目という立場なので、組織に属して働くときに持つべき意識や人との関わり方について初めて知ることが多くあり、非常に参考になった。また、具体的な人とのやりとりをペアで再現するという演習では、内容だけでなく口調や声のトーンなど意識すべき点を理解することができた。

今回の研修では教員として働く中で活かせる多くのことを学べた。これらを踏まえ、自身の働き方及び、授業の改善に努めたい。



## 編集後記

令和6年度『研究紀要』が完成いたしました。お忙しいなか、原稿をお寄せくださった皆様に深く感謝いたします。

今年度は、授業改善に向けた取組と研修報告を中心に、全日制・定時制の両課程において実施された内容を報告させていただきました。

今後も校内外のさまざまな研修や授業実践を通して、教職員が共に協力して生徒理解と授業改善に結び付く研修活動に取り組んでいきたいと考えております。

## 令和6年度 研究紀要

令和7年3月 発行

発行者 秋田県立本荘高等学校